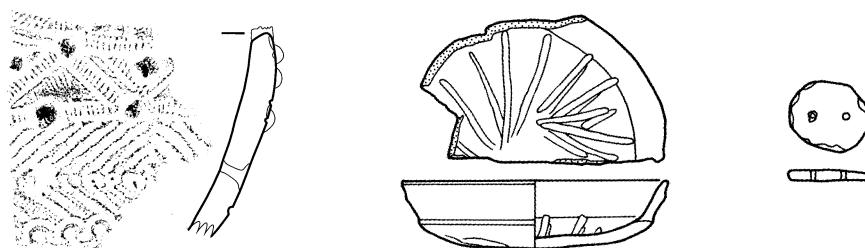


千葉県八千代市

白幡前遺跡 d 地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



平成27年度

君塚ミチ
八千代市教育委員会

例　言

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成 25 年度および 27 年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成に伴うもので、事業者である君塚ミチ氏の委託を受けて実施した。

2. 調査を行なった遺跡は白幡前遺跡 d 地点（遺跡No. 185）で、所在地は八千代市萱田字牛喰 1812・1813、萱田町字上ノ台 356 番 1 である。

3. 調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査 平成 25 年度市内遺跡調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した。

期間 平成 25 年 9 月 30 日～10 月 11 日 面積 226 m² / 2,306 m² (担当：宮澤久史)

本調査 期間 平成 25 年 10 月 28 日～11 月 14 日 面積 90.15 m² (担当：轟直行)

本整理 期間 平成 28 年 1 月 4 日～3 月 31 日 (担当：轟)

4. 出土した遺物のほか、写真・図面等の調査資料は八千代市教育委員会が保管している。

5. 調査参加者は以下のとおりである。

本調査 笠川千代子、桂田肇、鈴木一代、山本みつ江（あいうえお順）

本整理 小弓場直子、佐藤悠登（あいうえお順）

6. 本書の遺物実測図作成およびトレースは佐藤、小弓場、轟が行ない、図版作成は轟、遺物観察表・遺物写真撮影・編集・執筆は轟が担当した。



八千代市の位置



白幡前遺跡の位置

凡 例

1. 本書における遺構実測図の用例

(1) 図中における方位は世界測地系による公共座標に基づく。

(2) 縮尺率は以下のとおりである。

竪穴建物跡 1/80, ピット 1/40

(3) 遺構の切り合い関係については以下のように表現した。

例: 3号竪穴建物跡 < 2号竪穴建物跡 (3号竪穴建物跡が古く, 2号竪穴建物跡が新しい)

(4) 遺構の規模で括弧で括られている数値は推定によるものである。

2. 本書における遺物実測図の用例

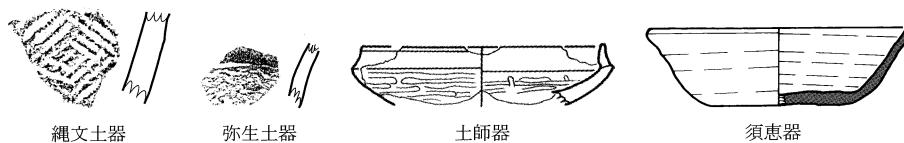
(1) 縮尺率は以下のとおりである。

土器実測図 1/4, 土器拓影図 1/3, 土製品 1/2, 石器・石製品 1/2・1/1

(2) 繩文土器・土師器については遺存範囲を表現した。

(3) 須恵器については他の土器と区別するために断面を ■ で表現した。

(4) 口径や底径といった法量を復元した場合は遺物観察表の数値を括弧で括った。



本文目次

例　言

凡　例

目　次

第1章　調査経過および白幡前遺跡の概要	1
第1節　調査に至る経緯と調査の概要	
第2節　白幡前遺跡の概要	
第2章　検出された遺構と遺物	8
第1節　縄文時代	
第2節　古墳時代	
第3節　奈良・平安時代	
第4節　ピット	
第5節　遺構外出土遺物	
第3章　今回の調査成果	25
報告書抄録	32

挿図目次

第1図　白幡前遺跡と周辺の遺跡	第2図　今回の調査地点と過去の調査地点
第3図　確認調査の結果と保存協議範囲	第4図　今回の調査で検出された遺構
第5図　基本層序	第6図　1号竪穴建物跡
第7図　1号竪穴建物跡出土遺物	第8図　2号・3号竪穴建物跡（1）
第9図　2号・3号竪穴建物跡（2）	第10図　2号竪穴建物跡出土遺物
第11図　3号竪穴建物跡出土遺物	第12図　2号・3号竪穴建物跡出土遺物
第13図　1号溝跡	第14図　1号溝跡出土遺物
第15図　1P～5P	第16図　6P～12P
第17図　13P・14P	第18図　15P
第19図　遺構外出土遺物	

表 目 次

第 1 表 白幡前遺跡と周辺の遺跡	第 2 表 1号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)
第 3 表 1号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)	第 4 表 2号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)
第 5 表 2号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)	第 6 表 3号堅穴建物跡出土遺物観察表
第 7 表 2号・3号堅穴建物跡出土遺物観察表	第 8 表 1号溝跡出土遺物観察表
第 9 表 ピット出土遺物観察表	第 10 表 15 P出土貝類種名表
第 11 表 15 P出土貝類計測表	第 12 表 検出ピット一覧
第 13 表 遺構外出土遺物観察表	

写 真 図 版

写真図版 1 俯瞰写真（北西から），基本層序 KS1-KS1'（南西から），基本層序 KS2-KS2'（南西から），1号堅穴建物跡遺物出土状況（南西から），1号堅穴建物跡（北東から），2号堅穴建物跡遺物出土状況（北西から），2号堅穴建物跡No.2出土状況（南西から），2号堅穴建物跡（北西から）

写真図版 2 3号堅穴建物跡下層硬化面検出状況（北東から），3号堅穴建物跡遺物出土状況（南から），3号堅穴建物跡（南西から），1号溝跡（南東から），15Pにおける貝の出土状況（西から）

写真図版 3 1号堅穴建物跡出土遺物，2号堅穴建物跡出土遺物（1）

写真図版 4 2号堅穴建物跡出土遺物（2），3号堅穴建物跡出土遺物（1）

写真図版 5 3号堅穴建物跡出土遺物（2），2号・3号堅穴建物跡出土遺物，1号溝跡出土遺物，2P出土遺物，6P出土遺物，9P出土遺物，遺構外出土遺物

写真図版 6 15P出土貝類

第1章 調査経過および白幡前遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯と調査の概要

平成25年8月1日付でロング・イン・ジャパン株式会社代表取締役石井秀俊氏(以下「事業者」という。)から、八千代市萱田字牛喰1767～1770・1812～1814、萱田町字上ノ台356番1を対象とする文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事の発掘届が八千代市教育委員会(以下「市教委」という。)に提出された。これに対して市教委は取扱いの協議によって確認調査を行なうこととし、準備が整った平成25年9月30日に確認調査を開始した。

確認調査 確認調査は、平成25年度市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施し、対象面積2,306m²のうち226m²を調査した。その結果、遺構としては縄文時代の堅穴建物跡2軒、奈良・平安時代の堅穴建物跡5軒・土坑2基・溝跡1条、近世～近代溝跡1条が確認された。

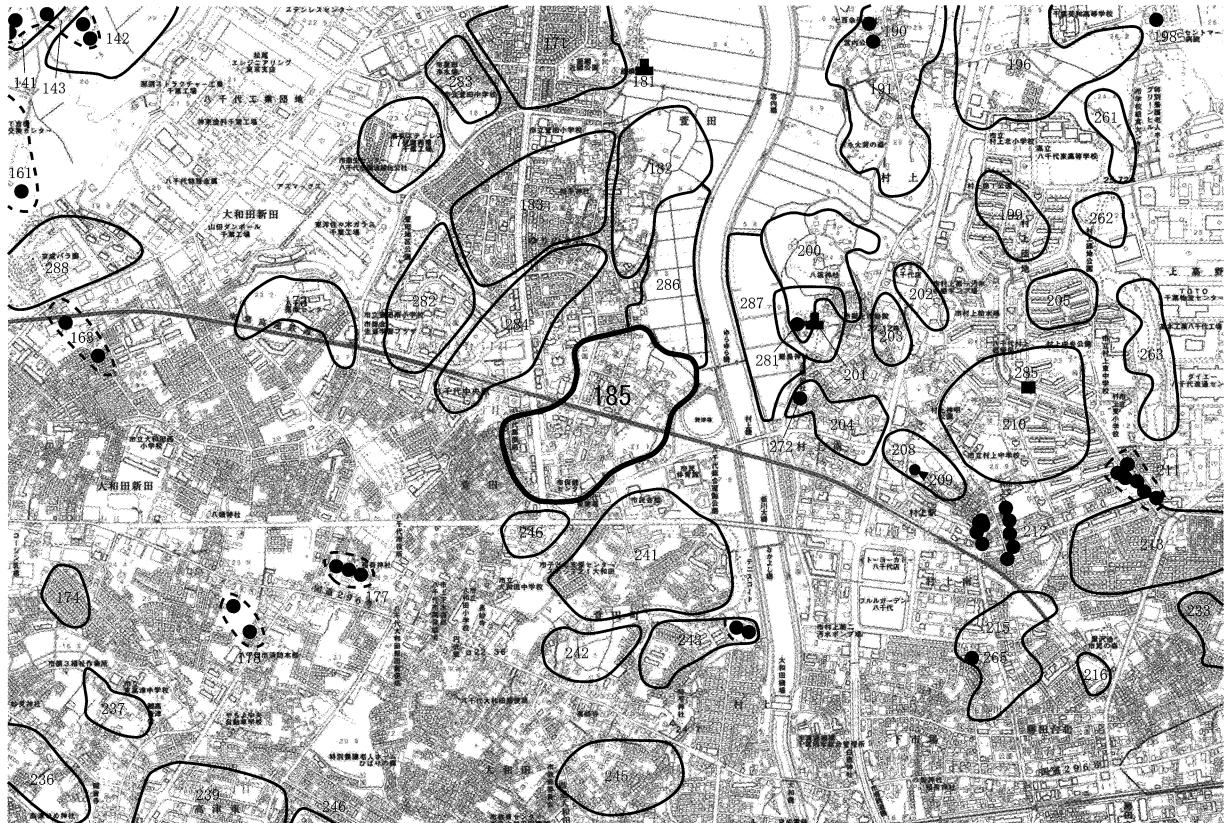
保存協議 確認調査の結果をもとに協議範囲を1,340m²とし、その上で市教委と事業者間で検討した結果、971.99m²が盛土保存範囲となり、277.86m²は開発区域から除外され、残りの90.15m²が記録保存の措置をとられることとなった。市教委は事業者に対して平成25年10月18日付で調査にかかる費用の見積もりを提示し、事業者は同日付で調査依頼書を提出し、同年10月21日付で市教委はこれを受託した。そして、同年10月24日付で市・市教委・事業者の三者間で保存措置に関する協定を締結し、同日に市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。市教委は準備が整った同年10月28日に本調査を開始した。

調査の方法 調査区は調査開始前に事業者が設定し、市教委は測量会社に委託して世界測地系の座標を調査区周辺に取り付けた。そして、この座標を基準に光波測量機を使用して調査に関わる測量を行なった。掘削作業については表土の掘削を重機で、包含層の掘削を人力で行ない、遺構確認は3層の暗褐色土層、4層のソフトローム層の2回に分けて行なった。

調査経過 10月28日は機材搬入を行ない、10月29日に重機による表土剥ぎを行ない、堅穴建物跡や溝跡土坑を検出。10月30日には2号堅穴建物跡と3号堅穴建物跡の切り合い関係を判断するためにサブトレーナーを設定した上で掘削を行ない、2号堅穴建物跡が新しく、3号堅穴建物跡が古いことが明らかとなった。それ以降は検出された各遺構を掘削し、遺物の出土状況などの写真を適宜撮影しつつ、11月13日には遺構の掘削作業をすべて終了し、全景写真を撮影。11月14日に重機による埋め戻しを行ない、全ての作業を終了した。

第2節 白幡前遺跡の概要

白幡前遺跡と周辺の遺跡 萱田地区遺跡群は、萱田地区特定土地地区画整理事業に伴って白幡前遺跡に加えて権現後遺跡・ヲサル山遺跡・北海道遺跡・坊山遺跡・井戸向遺跡が財団法人千葉県文化財センターによって大規模に発掘調査され、旧石器時代から中世に至る遺構・遺物が確認された。本遺跡の南には弥生時代後期～古墳時代中期を主体とする川崎山遺跡があり、新川を隔てた東方の村上地区には浅間内遺跡をはじめとする村上地区遺跡群が所在する。新川上流



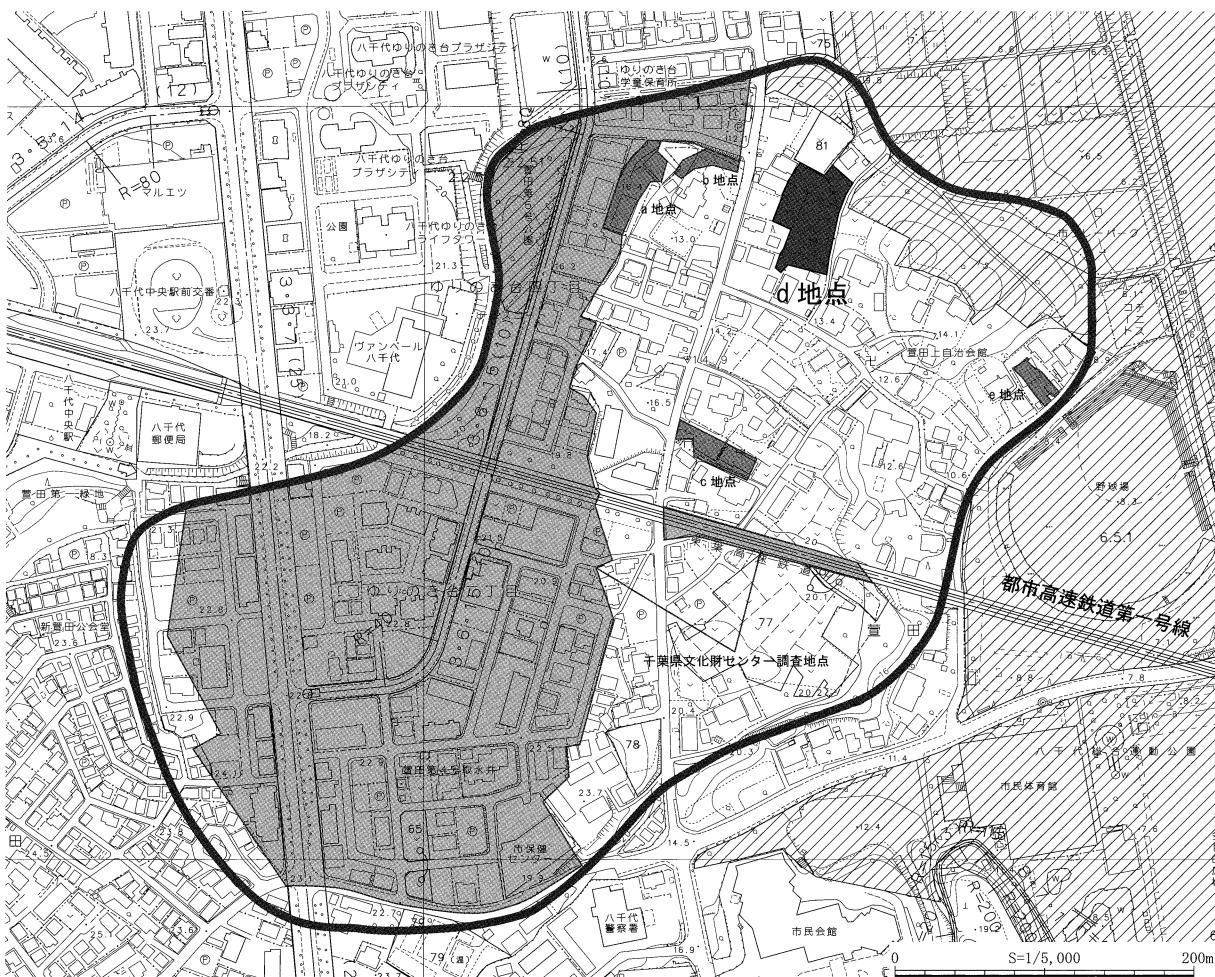
第1図 白幡前遺跡と周辺の遺跡

および辺田前・沖塚前低地に臨むこの一帯は遺跡の密集地として認識される。

遺跡の立地 白幡前遺跡は市域を南北に流れる新川西岸の台地上および低位段丘面（千葉段丘面）上に位置し、北は寺谷津、南は池ノ谷津によって画されている。標高は8～24mであり、今回調査を行なったd地点は標高13～14mの台地上に位置する。白幡前遺跡が立地する台地のほぼ中央には南北に走る旧道があり、これは大和田宿から萱田の集落内を経て飯綱神社（飯綱大権現）に至る古道で、かつては「萱田道」あるいは「権現道」と呼ばれていた。

これまでの調査 萱田地区の遺跡については、昭和50（1975）年11～12月に萱田地区特定土地区画整理事業の一環として事前準備の遺跡分布調査が、財団法人千葉県文化財センター（以下「財千葉県文化財センター」という。）によって実施され、遺跡分布状況が把握された（財千葉県文化財センター1984）。昭和54（1979）年には、北～西を須久茂谷津、南を池ノ谷津、東を「権現道」で画された一帯が萱田遺跡とされ、白幡前遺跡の西半分が遺跡として認識された（八千代市史編さん委員会1979）。昭和58（1983）年の市教委による埋蔵文化財包蔵地所在調査報告の時には、萱田遺跡が分割され、寺谷津と池ノ谷津に挟まれた台地上で、「権現道」よりも西側を白幡前遺跡、東側を上の台遺跡と呼称した（市教委1983）。

これらと前後して昭和54年8月から昭和63（1988）年9月にかけ、白幡前遺跡の94,026m²について、萱田地区特定土地区画整理事業の実施に伴い、財千葉県文化財センターが発掘調査を行なった。その結果、旧石器時代～奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く確認された。とくに奈良・平安時代では竪穴建物跡279軒・掘立柱建物跡149棟が検出され、墨書き土器や瓦塔な



第2図 今回の調査地点と過去の調査地点

ど豊富な遺物も認められ、人面と「丈部人足召（代）」という文字が墨書きされたロクロ成形の土師器小形甕は当時の学界の注目を集めた（財千葉県文化財センター 1991）。

上の台遺跡では平成2（1990）年12月～平成3（1991）年8月にかけて東葉高速鉄道の建設に伴う $1,935\text{ m}^2$ を対象とする発掘調査が（財千葉県文化財センター）によって行なわれ、奈良・平安時代の竪穴建物跡14軒などが検出された（財千葉県文化財センター 1997）。

平成9（1997）年には埋蔵文化財分布地図改訂に伴って上の台遺跡は白幡前遺跡に統合された（財千葉県文化財センター 1994）。

市教委による調査としては、平成13（2001）年に遺跡北部でa地点 $1,498\text{ m}^2$ 、b地点 214 m^2 が発掘調査され、奈良・平安時代の竪穴建物跡19軒・掘立柱建物跡6棟などが検出された（市教委 2003）。平成20（2008）年には遺跡中央部でc地点 311 m^2 が発掘調査され、奈良・平安時代の竪穴建物跡4軒、溝跡1条などが検出された（市教委 2009）。平成26（2014）年には低位段丘面で調査を行ない、中世から近世にかけての遺構・遺物が確認された（市教委 2015）。それまでの調査は台地上で行なわれていたことから、この調査は低位段丘面で初めて行われた調査であり、さらには中世から近世にかけての遺構が低位段丘面に広がっていることを明らかにした点で特筆すべきものとなった。

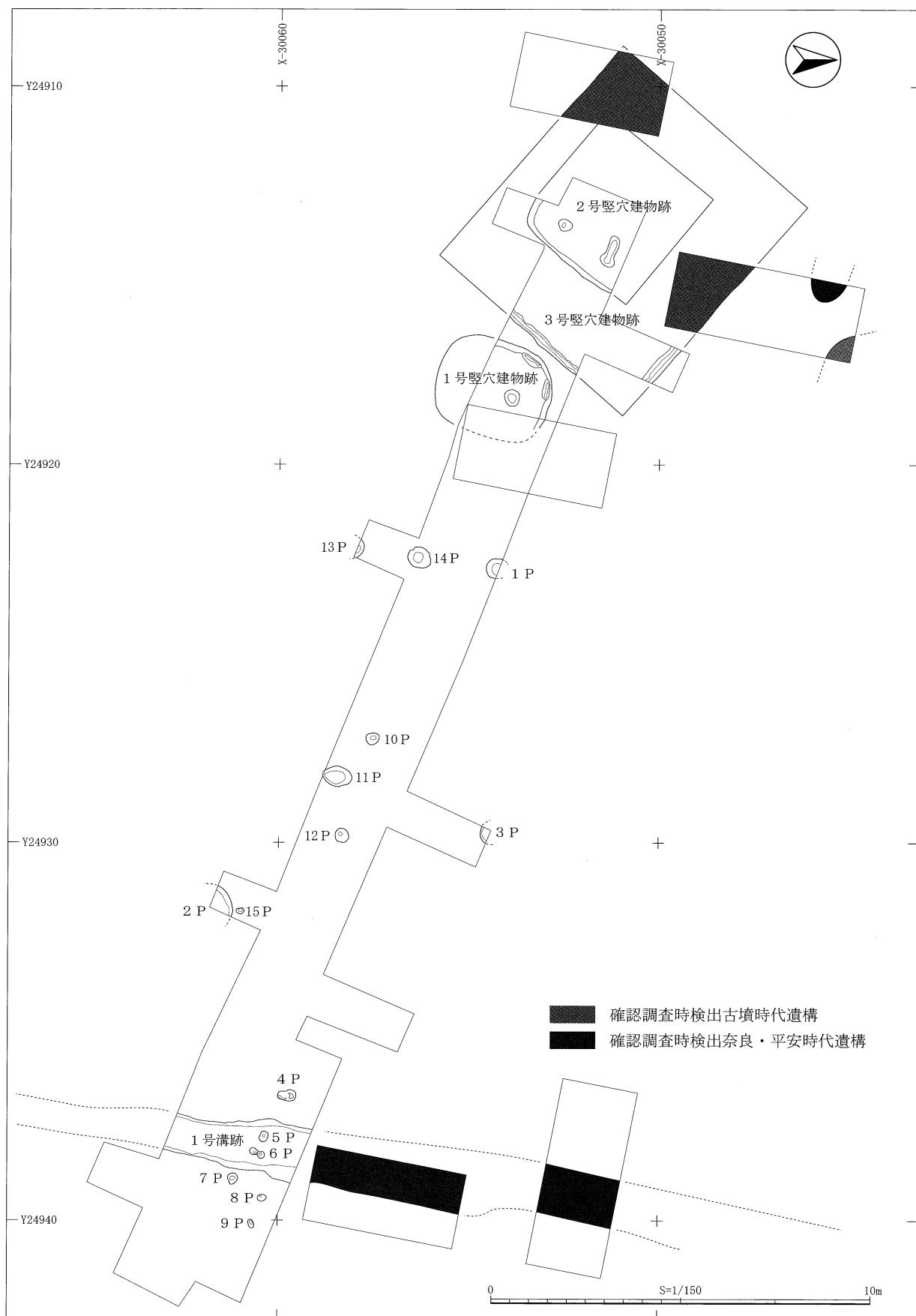
第1表 白幡前遺跡と周辺の遺跡

遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代	遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代
141	平作遺跡	桑納川	包蔵地, 集落跡	縄文, 古代	209	根上神社古墳	新川	古墳	古墳
142	吉橋芝山遺跡	桑納川	包蔵地	縄文, 古代	211	村上第1塚群	新川	塚	旧石器, 縄文, 古墳, 中近世
143	尾崎群集塚	桑納川	塚	中近世	212	村上第2塚群	新川	塚	縄文, 近世
161	笛塚塚群	桑納川	塚	中近世	213	黒沢台遺跡	新川	包蔵地	旧石器, 縄文, 古代, 中近世
163	向山塚	桑納川	塚	中近世	215	沖塚遺跡	新川	包蔵地, 集落跡, 生産跡	旧石器, 縄文, 古墳, 古代
171	権現後遺跡	桑納川	包蔵地, 集落跡	旧石器, 縄文, 弥生, 古墳, 古代	216	台北側遺跡	新川	包蔵地	旧石器, 縄文, 古代
172	ヲサル山南遺跡	桑納川	包蔵地	旧石器, 縄文	233	新林遺跡	高野川	包蔵地	縄文, 古代
173	向山遺跡	新川	包蔵地	旧石器, 縄文, 古代	236	門原遺跡	高津川	包蔵地	古代
174	一本松遺跡	高津川	包蔵地	古代	237	高津中村遺跡	高津川	包蔵地	古代
177	庚塚第1塚群	新川	塚	中近世	239	高津新山遺跡	高津川	包蔵地, 集落跡	旧石器, 縄文, 古墳, 古代, 中近世
178	庚塚第2塚群	新川	塚	中近世	241	川崎山遺跡	新川	包蔵地, 集落跡	旧石器, 縄文, 弥生, 古墳
181	飯綱砦跡遺跡	新川	砦跡	中近世	242	北裏畠遺跡	新川	包蔵地	古代
182	南海道遺跡	新川	包蔵地	弥生, 古代	243	上の山遺跡	新川	集落跡	弥生, 古墳, 古代
183	北海道遺跡	桑納川	包蔵地, 集落跡	旧石器, 縄文, 古墳, 古代	245	小板橋遺跡	新川	集落跡	古墳, 中近世
185	白幡前遺跡	新川	包蔵地, 集落跡	旧石器, 弥生, 古墳, 古代, 中近世	246	内込遺跡	高津川	包蔵地, 集落跡	古墳, 古代
190	七百余所神社古墳	新川	古墳	古墳	261	大塚遺跡	高野川	包蔵地	古代
191	村上官内遺跡	新川	包蔵地, 集落跡	縄文, 古代	262	大塚南遺跡	高野川	包蔵地	古代
196	西山遺跡	新川	集落跡	古墳, 古代	263	野路作遺跡	高野川	包蔵地	古代
198	上高野相野庚申塚	新川	塚	中近世	265	沖塚古墳	新川	古墳	古墳
199	村神向原遺跡	新川	包蔵地	縄文, 弥生, 古墳, 古代	272	浅間内古墳	新川	古墳	古墳
200	持田遺跡	新川	集落跡	縄文, 古墳, 古代	281	正覚院塚	新川	古墳	古墳
201	正覚院館跡	新川	城館跡	中近世	282	坊山遺跡	新川	包蔵地, 集落跡	旧石器
202	境作遺跡	新川	包蔵地	古墳, 古代	283	ヲサル山遺跡	桑納川	包蔵地, 集落跡	旧石器, 縄文, 弥生, 古墳
203	殿内遺跡	新川	集落跡	縄文, 古墳, 古代	284	井戸向遺跡	新川	包蔵地, 集落跡	旧石器, 縄文, 弥生, 古墳, 古代, 中近世
204	浅間内遺跡	新川	集落跡	縄文, 弥生, 古代, 中近世	286	志津根遺跡	新川	包蔵地	古代
205	名主山遺跡	新川	集落跡	弥生, 古代	287	浅間下遺跡	新川	包蔵地	縄文, 古代
208	白筋遺跡	新川	包蔵地	旧石器, 古代	288	長兵衛野南遺跡	桑納川	包蔵地, 集落跡	縄文

今回の調査は台地上で行なわれたものであり、検出された遺構は縄文時代中期の竪穴建物跡1軒、古墳時代後期の竪穴建物跡2軒、奈良時代の溝跡1条、奈良・平安時代と考えられるピット4基、古墳時代後期～奈良・平安時代と思われるピット12基が検出された。特筆されるのは縄文時代前期の関山式期、中期の阿玉台式期に関する遺構・遺物がまとまって確認されたことであり、これまでの調査では不明瞭であった縄文時代の様相の一端が今回の調査から明らかとなつた。



第3図 確認調査の結果と保存協議範囲

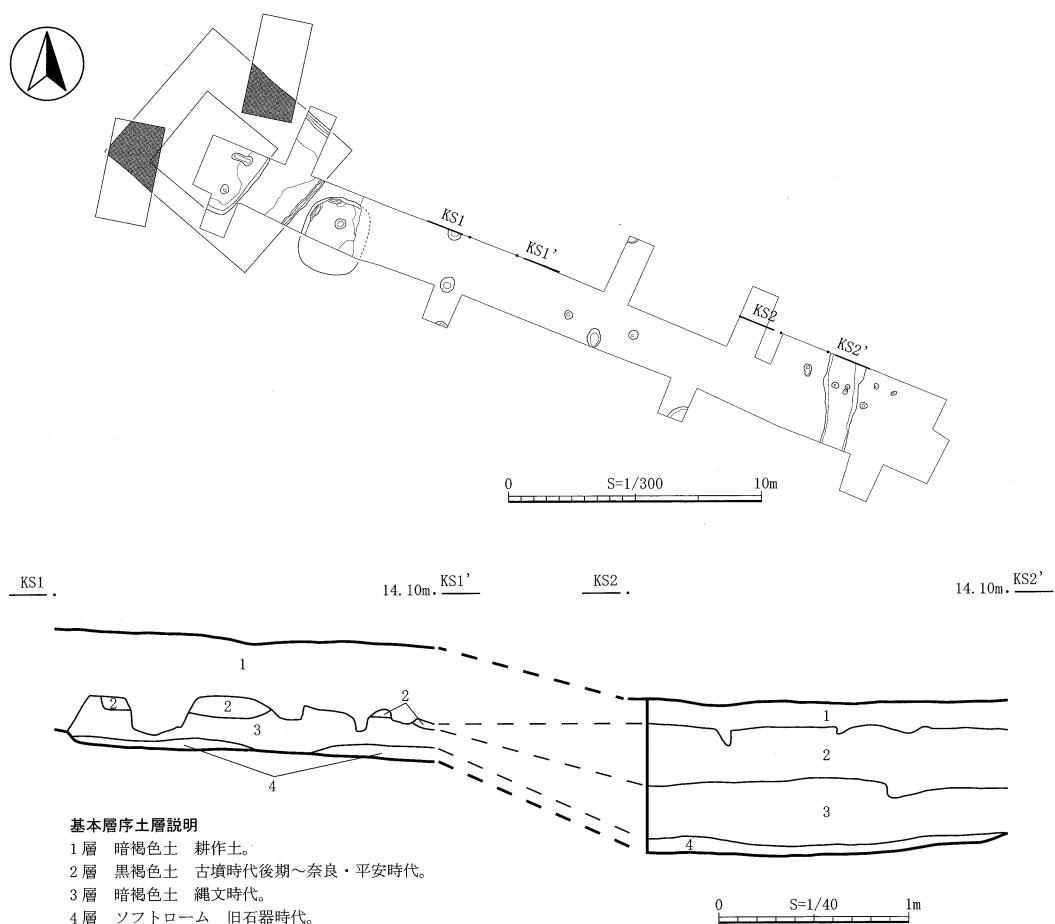


第4図 今回の調査で検出された遺構

第2章 検出された遺構と遺物

今回の調査では、縄文時代中期（阿玉台式期）の竪穴建物跡1軒、古墳時代後期の竪穴建物跡2軒、奈良時代の溝跡1条、奈良・平安時代の土坑4基、古墳時代後期～奈良・平安時代と思われる土坑12基が検出された。出土した遺物としては縄文時代前期前半の関山1式および同2式の土器、阿玉台I b式の土器、縄文時代に位置づけられる打製石斧・石鎌・剥片、古墳時代後期の土器・石製模造品、奈良・平安時代の土器が出土した。

基本層序としては、古墳時代後期～奈良・平安時代と考えられる2層の黒褐色土層と縄文時代と考えられる3層の暗褐色土層、ソフトローム層が認められ、遺構確認は暗褐色土層とソフトローム層の2回に分けて行なった。



第5図 基本層序

第1節 繩文時代

1号竪穴建物跡

時期：縄文時代中期 阿玉台 I b 式

検出面：ソフトローム層

切り合い関係：なし

平面形態：遺構の1／4しか調査できなかつたため、形態は不明である。なお、確認調査時に当該遺構があることに気付かず、確認調査時のトレンチによって東側の一部が破壊された。

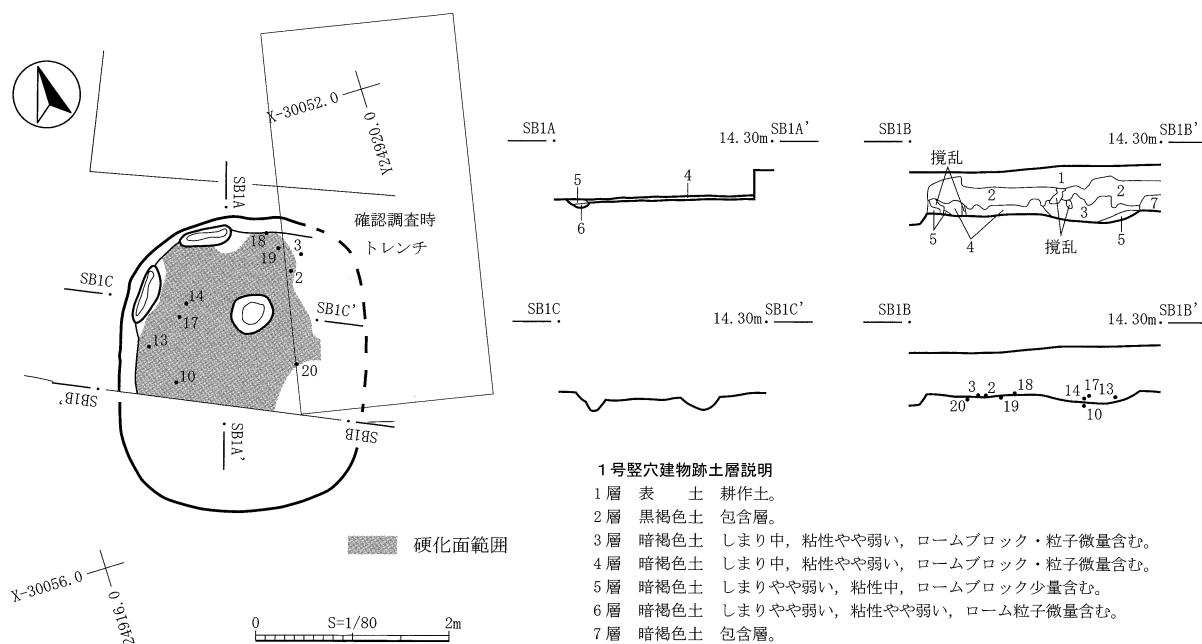
規模：長軸不明×短軸不明×深さ 0.29m。

構造：本遺構の上端沿いに周溝状の細長いピットが2基、遺構中央付近にピット1基が検出された。検出されたピットはいずれも浅い。

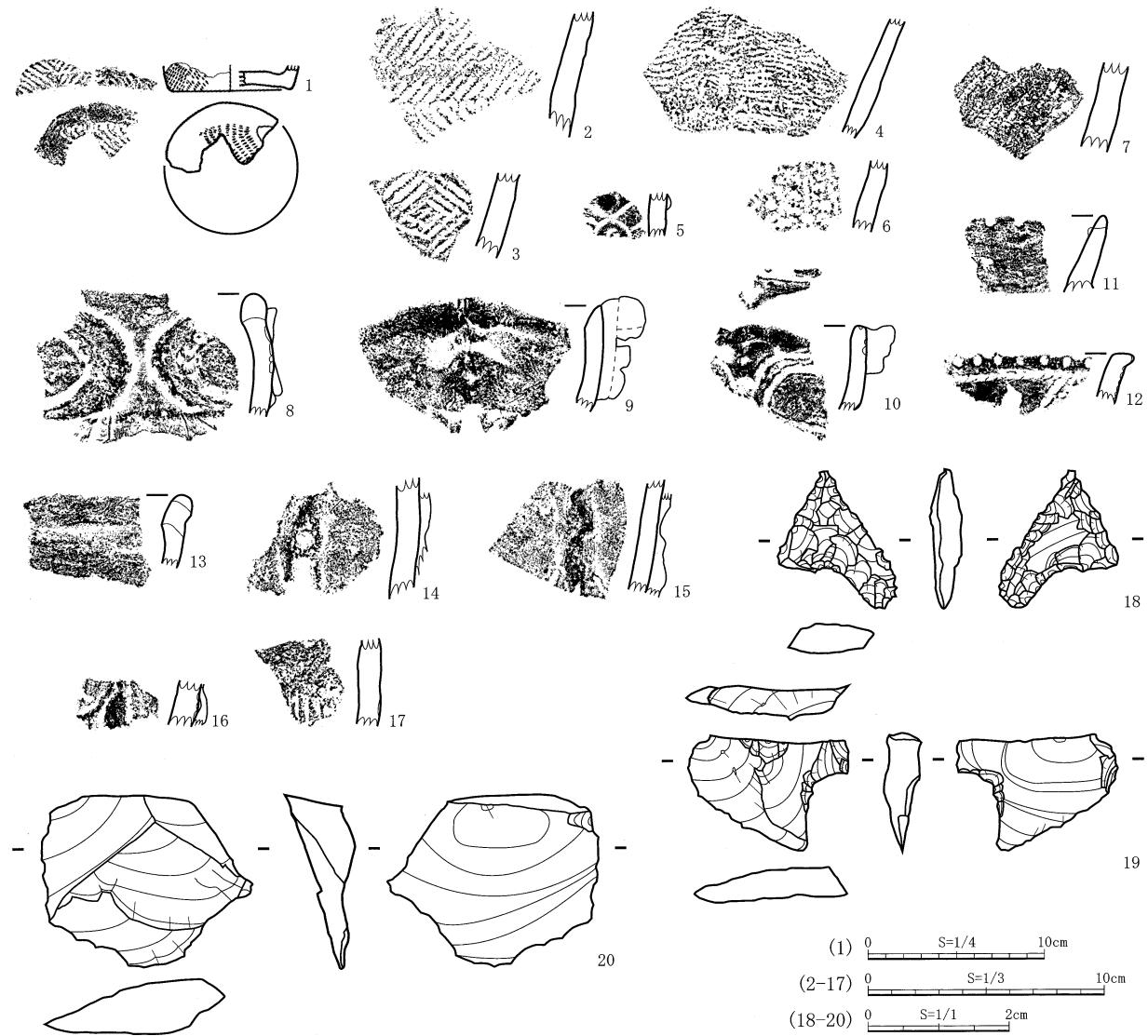
埋土：SB1B-SB1B' の観察から本遺構が黒褐色土の包含層によってパックされていたと判断される。埋土は、やや歪ではあるが、レンズ状堆積と考えられる。

遺物出土状況：埋土から床面直上にかけて関山1式や阿玉台I b式が出土し、黒曜石製石鏃や黒曜石製二次加工剥片、チャート製剥片が床面直上から出土した。

遺物：本遺構から出土した縄文土器は第7図1～7が関山1式で、第7図8～15は阿玉台I b式である。石器では18が黒曜石製石鏃で、19が黒曜石製二次加工剥片、20がチャート製剥片である。



第6図 1号竪穴建物跡



第7図 1号竪穴建物跡出土遺物

第2表 1号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

土器								
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土位置	その他
1	関山1式 深鉢	底部 遺存率20% 残存高: 1.6 cm	底 径: 6.8 cm	外面: 橙色 (7.5YR6/6) 内面: 灰オリーブ (5Y5/2)	擦りの緩い LR・RL 繩文	長石・雲母・砂粒	床面直上 周溝	
2	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面: 橙色 (5YR6/6) 外面: 橙色 (5YR6/6)	LR・RL 繩文	雲母・砂粒	床面直上	
3	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面: 橙色 (5YR6/6) 内面: 橙色 (5YR6/6)	LR・RL 繩文	雲母・砂粒	床面直上	
4	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面: 明赤褐色 (5YR5/6) 内面: 褐灰色 (5YR4/1)	貝殻背压痕文	雲母・砂粒	埋土	内面にコゲあり。
5	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面: にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内面: 黒褐色 (7.5YR3/1)	沈線紋・瘤状貼付文	雲母・砂粒	埋土	
6	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面: 明赤褐色 (2.5YR5/6) 内面: 黒色 (7.5YR2/1)	繩文	長石・砂粒	床面直上	比熱による外面の剥落が 顕著なため、器面の繩文 原体は特定できず。
7	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面: にぶい黄褐色 (10YR7/4) 内面: にぶい黄橙色 (10YR6/4)	擦りの緩い LR 繩文	雲母・長石・ 砂粒	床面直上	

第3表 1号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

土器								
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土位置	その他
8	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：灰褐色(5YR4/2) 内面：灰褐色(5YR4/2)・明赤褐色(5YR5/6)	隆蒂文・角押文	雲母・長石・細礫・砂粒	埋土	
9	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：橙色(7.5YR6/6) 内面：橙色(7.5YR6/6)	隆蒂文	雲母・長石・細礫・砂粒	床面直上	
10	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：にぶい赤褐色(5YR5/4) 内面：黒褐色(7.5YR3/2)	隆蒂文・角押文・沈線文	雲母・長石・砂粒	周溝	
11	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：灰褐色(7.5YR5/2) 内面：にぶい黄橙色(10YR6/4)	キザミ文	雲母・長石・砂粒	床面直上	
12	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：黒褐色(10YR3/1) 内面：黒褐色(10YR3/1)	隆蒂文・角押文・キザミ文	雲母・長石・石英・砂粒	埋土	
13	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：灰黄橙色(10YR5/2) 内面：灰黄橙色(10YR5/2)	無文	雲母・長石・細礫・砂粒	床面直上	
14	阿玉台I b式 深鉢	胴部 破片	—	外面：橙色(7.5YR6/6) 内面：橙色(7.5YR6/6)	隆蒂文・キザミ文	雲母・細礫・砂粒	床面直上	
15	阿玉台I b式 深鉢	胴部 破片	—	外面：にぶい黄橙色(10YR6/4) 内面：にぶい黄橙色(10YR6/4)	隆蒂文	雲母・長石・細礫・砂粒	床面直上	
16	阿玉台I b式 深鉢	胴部 破片	—	外面：黒褐色(7.5YR7/2) 内面：にぶい褐色(7.5YR5/4)	隆蒂文・角押文	雲母・長石・細礫	埋土	
17	阿玉台I b式 深鉢	胴部 破片	—	外面：橙色(7.5YR6/6) 内面：黒色(7.5YR2/1)	爪形文	雲母・細礫・砂粒	埋土	
石器								
遺物No.	型式・器種等	石材	寸法	観察所見			出土位置	その他
18	石鏃	黒曜石	最大長：20mm 最大幅：17mm 最大厚：4.2mm	脚部は片方が折れている。背面、腹面共に左側縁の剥離が新しい。腹面には素材剥片の主剥離面とみられる剥離あり。夾雜物が少なく、やや透明度もある事から信州系黒曜石の可能性あり。			床面直上	
19	二次加工剥片	黒曜石	最大長：17mm 最大幅：23mm 最大厚：5.2mm	腹面左あるいは背面右の凹部の加工から石鏃の基部製作中に脚部が破損したために廃棄されたと考えられる。剥片の打面は単剥離面で、やや平たい大き目の剥片の主剥離面を打面にしたと考えられる。透明感があり、黒い縞が入るために信州系黒曜石の可能性あり。			床面直上	
20	剥片	チャート	最大長：25mm 最大幅：29mm 最大厚：10mm	加工はなく、単剥離面の小型剥片。石鏃などの小型剥片石器の素材石核から剥離された事が想定される。			床面直上	

第2節 古墳時代

2号竪穴建物跡

時期：6世紀後半

検出面：暗褐色土層

切り合い関係：3号竪穴建物跡<2号竪穴建物跡

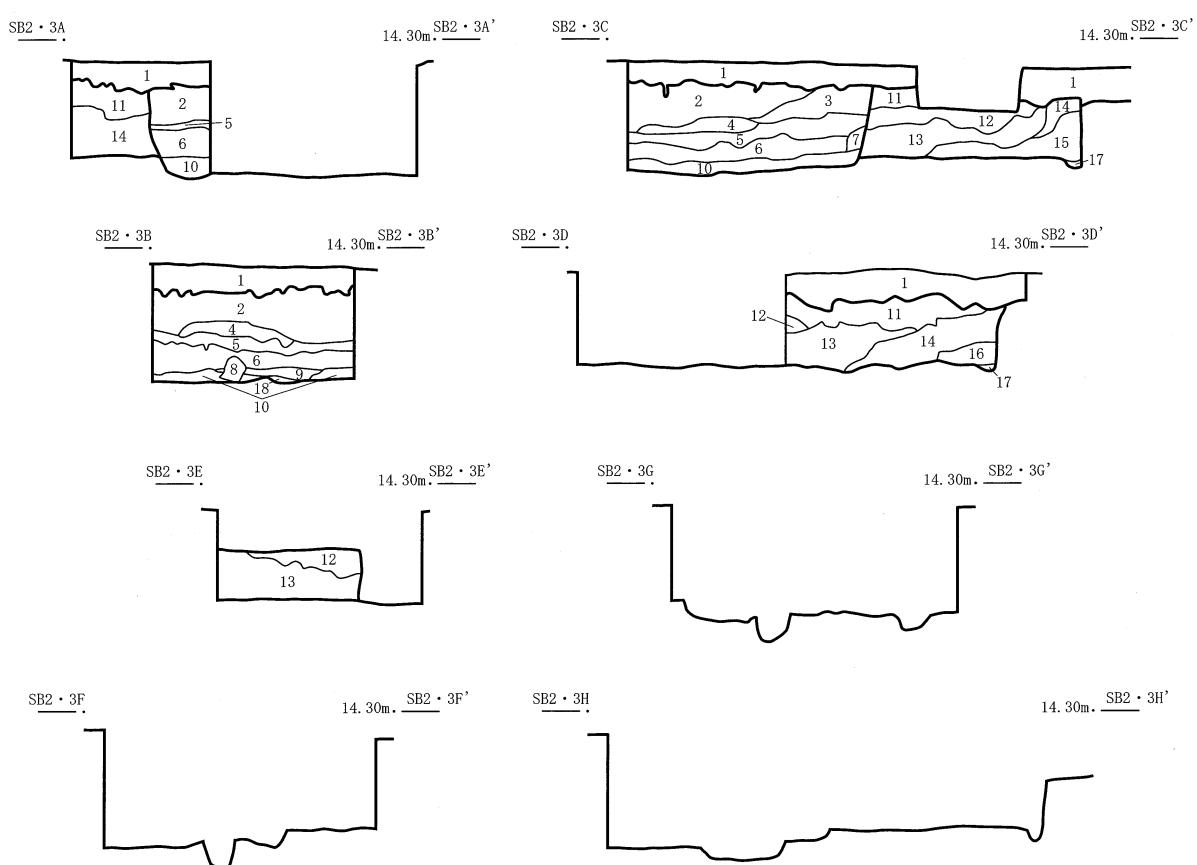
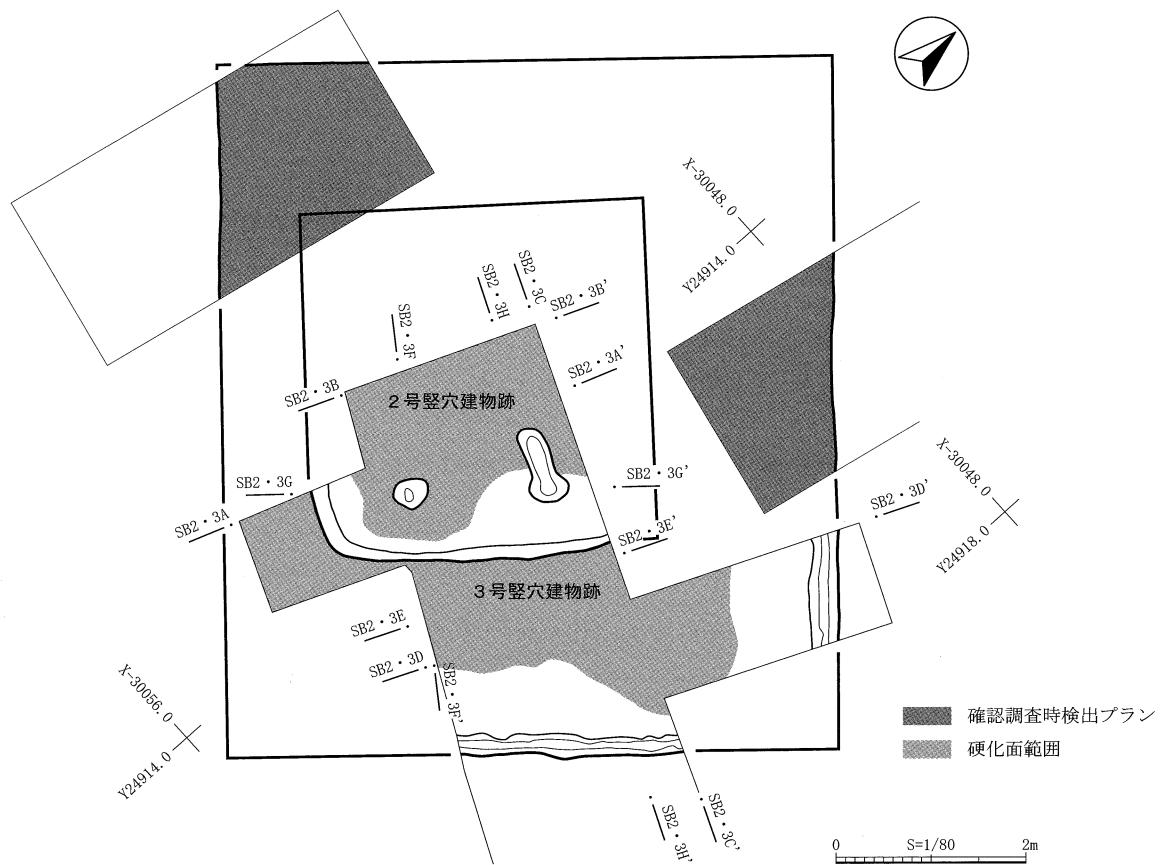
平面形態：1/3程度しか検出できなかったが、おそらく方形のプランになると思われる。

規模：長軸不明×短軸不明×深さ 0.96m

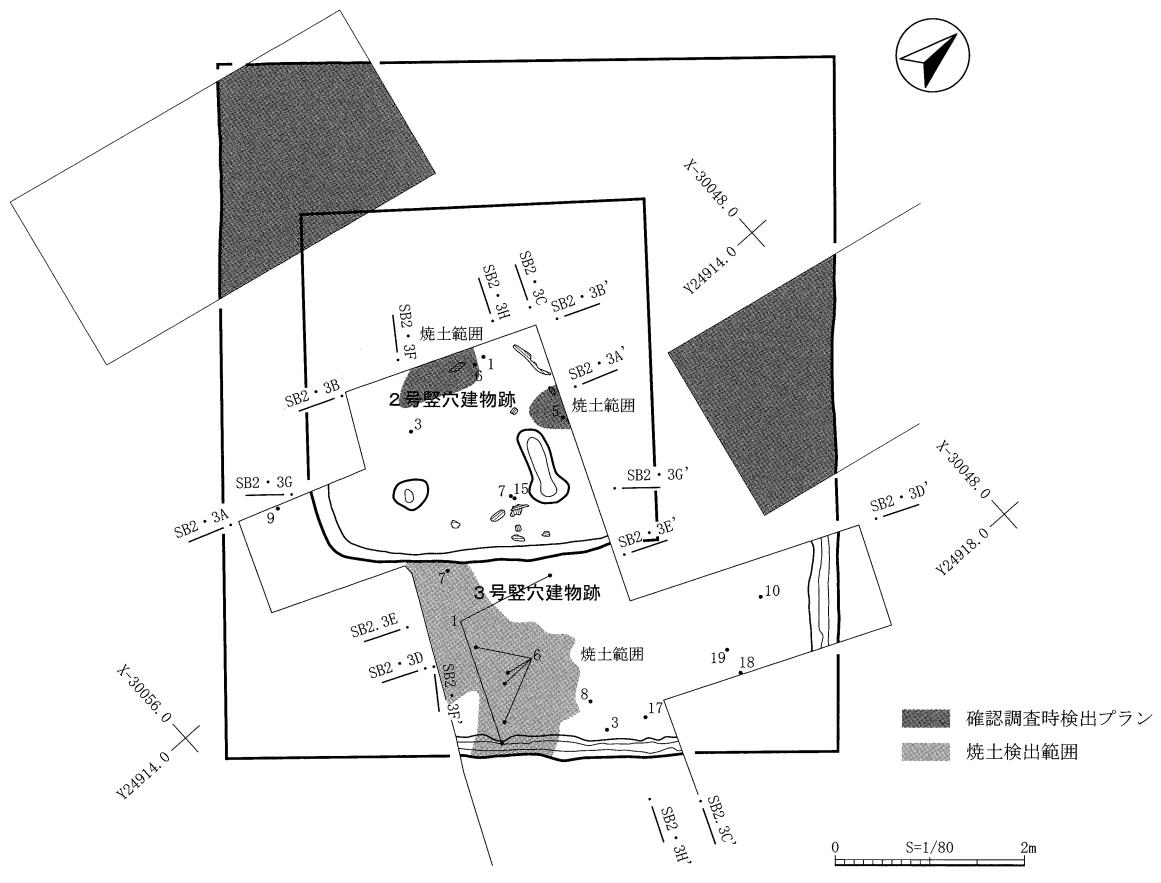
構造：不整形のピット1基、円形のピット1基を検出。いずれも掘り込みは浅い。貼床は検出されたが、周溝は検出されなかった。

埋土：レンズ状堆積と判断されることから、自然堆積によって埋土は形成されたと考えられる。ただし、埋土上層にあたる2層、そして埋土下層にあたる6・7層中で人的行為によると考えられる焼土の広がりが確認された。

遺物出土状況：5層から上を上層、6層から下を下層、床面すぐ上を床面直上として遺物を

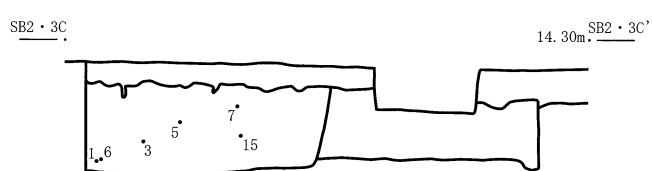


第8図 2号・3号竖穴建物跡 (1)

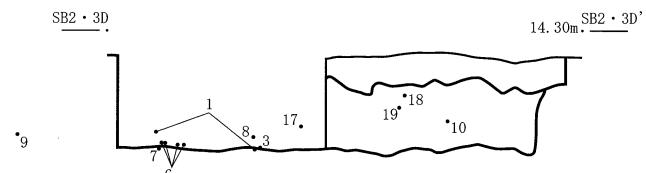


2・3号竖穴建物跡層説明

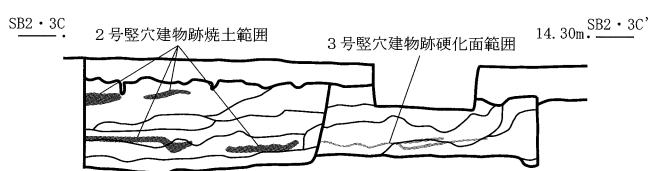
- 1層 表土 耕作土。
- 2層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
- 3層 黒褐色土 しまり中、粘性やや弱い、ロームブロック微量、ローム粒子中量含む。
- 4層 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子中量含む。
- 5層 黒色土 しまりやや強い、粘性中、ローム粒子少量含む。
- 6層 黒褐色土 しまり強い、粘性やや弱い、ロームブロック微量、ローム粒子中量、焼土ブロック・粒子微量、炭化物・炭化材少量含む。
- 7層 暗褐色土 しまり強い、粘性やや弱い、ロームブロック多量、ローム粒子中量含む。2号竖穴建物跡の埋土が流れ込んだと思われる。
- 8層 暗褐色土 しまりやや強い、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム粒子多量、焼土ブロック微量含む。
- 9層 暗褐色土 しまり強い、粘性やや弱い、ロームブロック中量、ローム粒子少量含む。貼床。
- 10層 暗褐色土 しまり強い、粘性やや弱い、ロームブロック多量、ローム粒子中量含む。貼床。
- 11層 黑褐色土 しまり中、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム粒子少量含む。
- 12層 黑褐色土 しまり中、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子多量含む。
- 13層 黑褐色土 しまり中、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム粒子中量含む。
- 14層 黑褐色土 しまり強い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子多量含む。
- 15層 暗褐色土 しまりやや強い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子少量含む。
- 16層 暗褐色土 しまり中、粘性やや弱い、ロームブロック中量、ローム粒子少量、黒色土ブロック少量含む。
- 17層 橙色土 しまり中、粘性中、ロームブロック・粒子少量含む。
- 18層 ソフトローム土 挖りすぎ



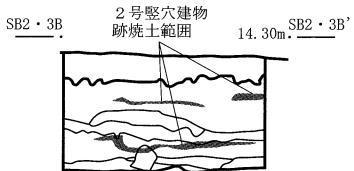
2号竖穴建物跡遺物分布状況



3号竖穴建物跡遺物分布状況

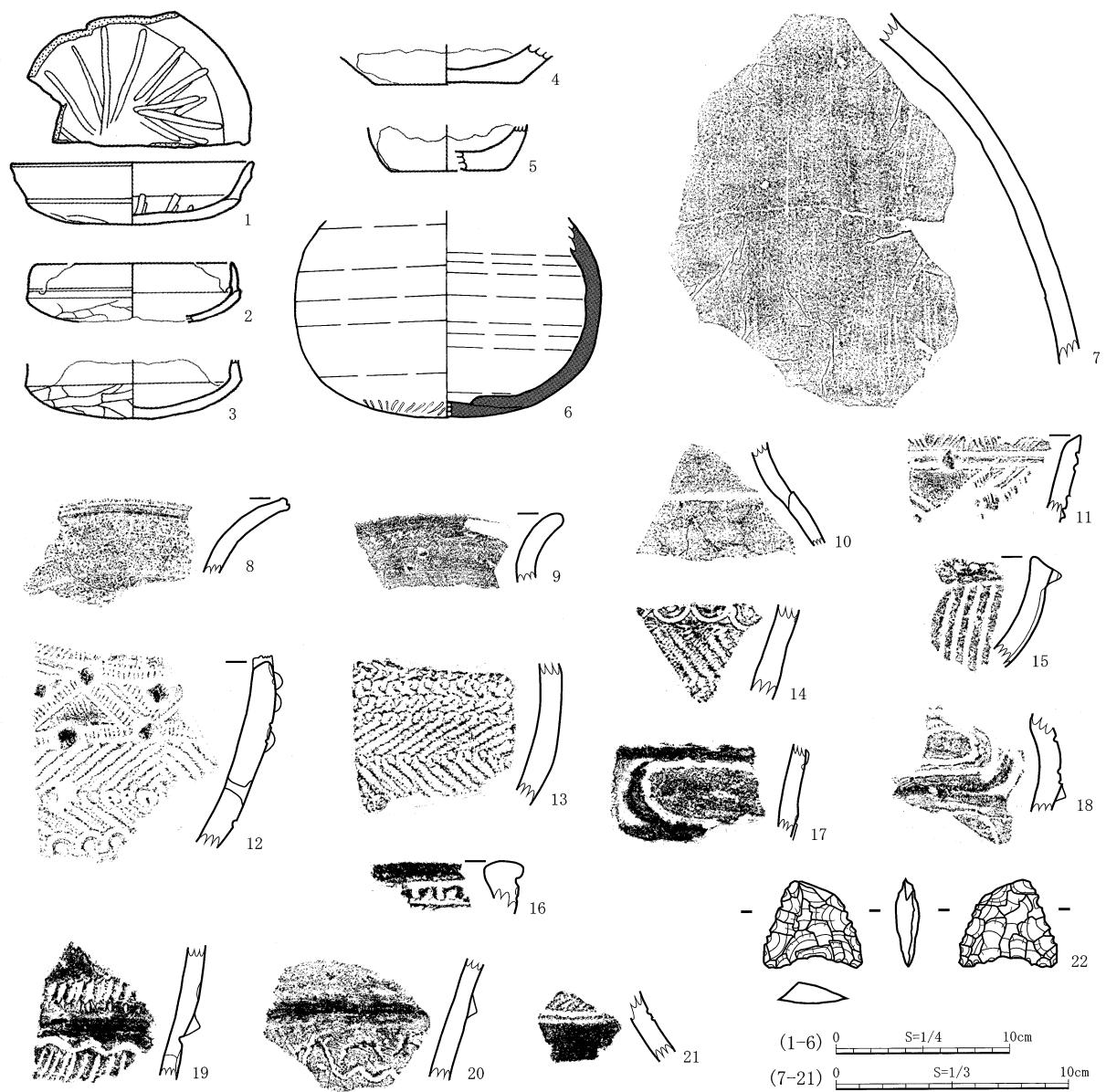


焼土・硬化面範囲模式図(1)

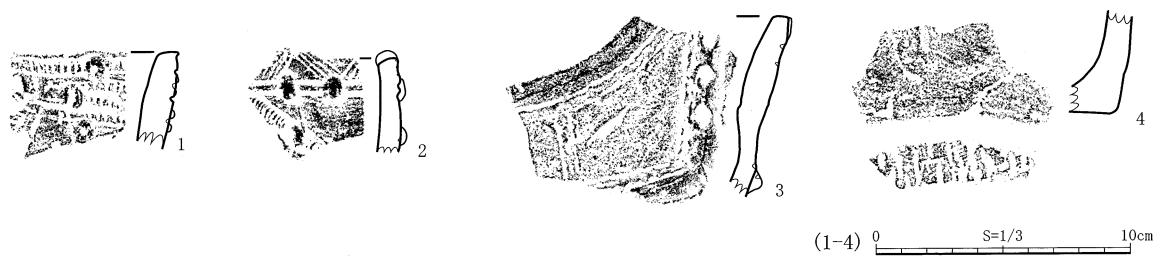


焼土・硬化面範囲模式図(2)

第9図 2号・3号竖穴建物跡(2)



第11図 3号竖穴建物跡出土遺物



第12図 2号・3号竖穴建物跡出土遺物

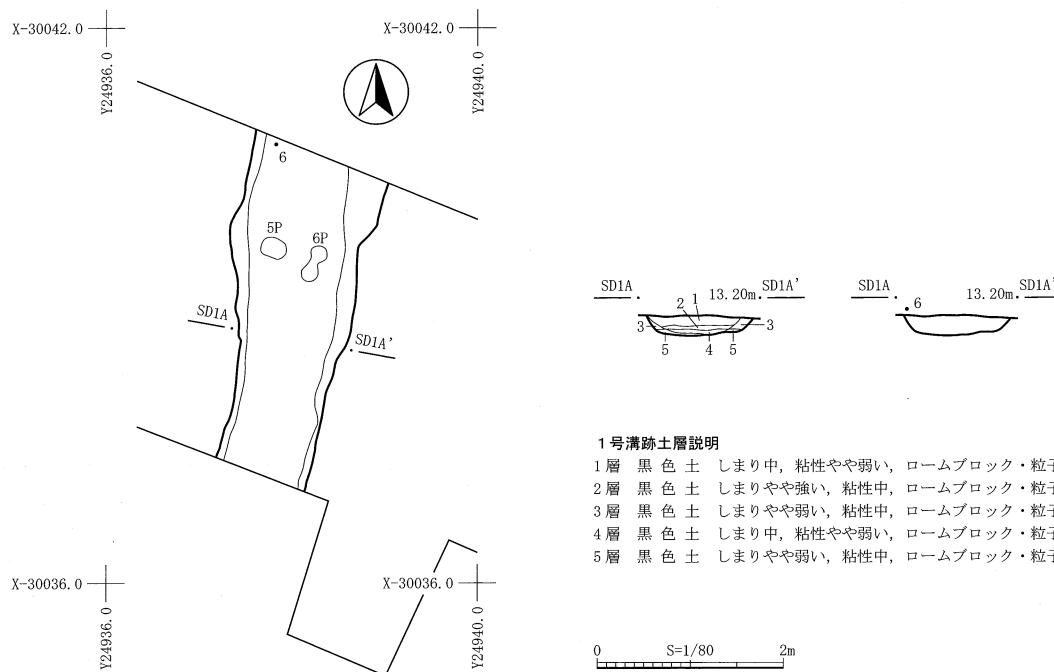
第6表 3号竪穴建物跡出土遺物観察表

土器								
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土位置	その他
1	古墳時代後期 土師器 壺	口縁～底部 遺存率 45%	口径：(13.8)cm 胴部最大径：(12.3)cm 器高：3.7cm	外面：橙色(5YR6/6)・にぶい橙色(7.5YR6/4)・黒色(7.5YR2/1,スス) 内面：にぶい橙色(7.5YR6/4)・黒色(7.5YR2/1,スス)	外面：口縁部ヨコナデ・ 胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ・ ミガキ	石英・砂粒	下層 床面直上	
2	古墳時代後期 土師器 壺	口縁～胴部 遺存率 20%	口径：(11.4)cm 胴部最大径：(12.3)cm 遺存器高：3.4cm	外面：にぶい黄橙色(10YR6/4)・ 黒色(10YR2/1) 内面：黒色(10YR2/1)	外面：口縁部ヨコナデ・ 胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ・ 胴部ナデ	石英・砂粒	下層	
3	古墳時代後期 土師器 壺	口縁～底部 遺存率 50%	胴部最大径：12.4cm 遺存器高；3.4cm	外面：橙色(7.5YR6/6)・黒褐色 (7.5YR3/1, 黒斑) 内面：橙色(7.5YR6/6)	外面：口縁部ヨコナデ・ 胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ・ 胴部ナデ	石英・砂粒	床面直上	
4	古墳時代後期 土師器 甕	底部 遺存率 20%	底径：(8.4)cm 遺存器高：2.2cm	外面：橙色(7.5YR6/6) 内面：橙色(7.5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	長石・赤色 粒・小石	下層	
5	古墳時代 土師器 手づくね土器	底部 遺存率 20%	底径(6.4)cm 遺存器高：2.6cm	外面：橙色(7.5YR6/6)・褐灰色 (7.5YR4/1, 黒斑) 内面：橙色(7.5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	石英・長石・ 赤色粒	下層	
6	奈良時代 須恵器 長頸壺	胴～底部	最大径：(17.7)cm 遺存器高：11.5cm	外面：灰白色(10Y7/1) 内面：灰白色(10Y7/1)	外面：ロクロ挽き	小石	床面直上	
7	古墳時代後期 土師器 長胴甕	胴部 破片	—	外面：にぶい黄橙色(10YR)・黒色(10YR2/1, 黒斑) 内面：橙色(7.5YR7/6)	外面：胴部ヘラケズリ 内面：胴部ナデ	石英・長石・ 赤色粒・海 面骨針・砂 粒	下層	
8	古墳時代後期 土師器 甕	口縁部 破片	—	外面：橙色(5YR7/8) 内面：橙色(5YR7/8)	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	雲母・砂粒	床面直上	
9	古墳時代後期 土師器 甕	口縁部 破片	—	外面：にぶい黄橙色(10YR7/3)・ 黒色(10YR2/1,スス) 内面：にぶい黄橙色(10YR7/3)	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ	石英・長石・ 小石	下層	
10	古墳時代後期 土師器 甕	胴部 破片	—	外面：にぶい黄橙色(10YR6/3) 内面：にぶい黄橙色(10YR6/3)	外面：胴部ヘラケズリ・ 胴部ナデ 内面：胴部ナデ	石英・長石・ 小石	下層	
11	関山1式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：にぶい赤褐色(5YR5/4) 内面：にぶい赤褐色(5YR5/4)	沈線文・キザミ文・瘤 状貼付文	長石・砂粒	上層	
12	関山1式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：褐灰色(5YR4/1) 内面：橙色(YR6/6)・褐灰色 (5YR4/1)	コンパス文・刺突文・キ ザミ文	石英・長石・ 砂粒	埋土	
13	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面：黄橙色(7.5YR7/8) 内面：にぶい黄橙色(10YR7/4)	LR・RL繩文	石英・長石・ 砂粒	上層	
14	関山1式 深鉢	胴部 破片	—	外面：橙色(7.5YR7/6) 内面：にぶい黄橙色(10YR7/3)	コンパス文・RL繩文	長石・砂粒	上層	
15	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：にぶい赤褐色(5YR5/4) 内面：橙色(5YR6/6)	押引文・隆帶文・キザミ 文	雲母・石英・ 長石・小石・ 砂粒	下層	
16	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：橙色(5YR6/6) 内面：橙色(5YR6/6)・黒褐色 (5YR3/1)	沈線文	雲母・長石・ 小石・砂粒	埋土	
17	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：暗褐色(7.5YR3/3) 内面：灰褐色(7.5YR5/2)	隆帶文・沈線文	雲母・石英・ 長石・砂粒	下層	
18	阿玉台I b式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：橙色(7.5YR6/4) 内面：褐灰色(7.5YR5/1)	隆帶文・角押文・キザミ 文	雲母・石英・ 長石・小石・ 砂粒	上層	
19	阿玉台I b式 深鉢	胴部 破片	—	外面：にぶい橙色(7.5YR6/4) 内面：にぶい褐色(7.5YR5.3)	隆帶文・沈線文・爪形文	雲母・石英・ 長石・小石・ 砂粒	上層	
20	阿玉台I b式 深鉢	胴部 破片	—	外面：橙灰色(5YR4/1) 内面：にぶい赤褐色(5YR5/3)	隆帶文・沈線文・キザミ 文	雲母・石英・ 長石・小石・ 砂粒	上層	
21	弥生時代後期 壺	胴部 破片	—	外面：浅黄橙色(10YR8/4)・橙色 (7.5YR6/6, 赤彩) 内面：浅黄橙色(10YR8/4)	沈線文・LR繩文	雲母・長石・ 砂粒	下層	
石器								
遺物No.	型式・器種等	石材	寸法	観察所見			出土位置	その他
22	石鏃	チャート	最大長：12.5mm 最大幅：14.3mm 最大厚：3.3mm	形態は凹基無茎。抉りは浅い。先端部分は折れている。内側まで剥離が届き、薄いレンズ状に加工されている。			埋土	

括して掲載した。

第7表 2・3号竪穴建物跡出土遺物観察表

土器								
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土位置	その他
1	関山1式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：にぶい橙色(7.5YR6/4) 内面：橙色(7.5YR6/6)	瘤状貼付文・刺突文・沈線文・キザミ文	長石・砂粒	サブトレ ンチ	
2	関山1式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：橙色(7.5YR6/6) 内面：橙色(7.5YR6/6)	瘤状貼付文・沈線文・爪形文	長石・砂粒	サブトレ ンチ	
3	阿玉台1式 深鉢	口縁部 破片	—	外面：にぶい赤褐色(5YR5/3) 内面：橙色(5YR6/6)	隆帶文・角押文	雲母・石英・砂粒	サブトレ ンチ	
4	阿玉台1式 深鉢	底部 破片	—	外面：にぶい褐色(7.5YR5/4) 内面：にぶい褐色(7.5YR5/4)	網代痕	雲母・石英・小石	サブトレ ンチ	



第13図 1号溝跡

第3節 奈良・平安時代

1号溝跡

時期：7世紀～8世紀前半

検出面：暗褐色土層

切り合い関係：5P・6aP・6bP < 1号溝跡

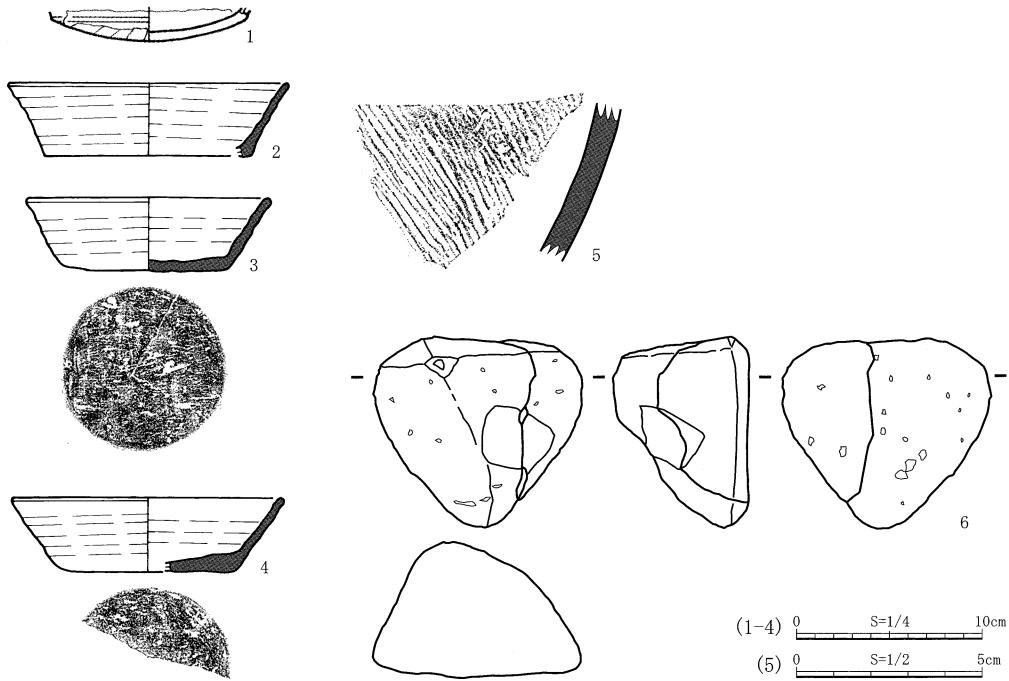
断面形態：舟底形

規模：幅1.15m×深さ0.23m

埋土：レンズ状堆積を呈することから自然堆積によって形成されたと考えられる。

遺物出土状況：埋土中から土師器壊、須恵器壊、須恵器のタタキ甕、軽石が出土した。

遺物：1は7世紀代と思われる土師器壊、2～4は8世紀前半と考えられる須恵器壊で、5



第14図 1号溝跡出土遺物

第8表 1号溝跡出土遺物観察表

土器								
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土位置	その他
1	古墳時代後期 土師器 壊	口縁～底部 遺存率 20%	胴部最大径：(10.4) cm 遺存器高：1.7cm	外面：黒色 (7.5YR2/1) 内面：黒色 (7.5YR3/1)	外面：口縁部ヨコナデ・ 胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ・ ナデ	長石・砂粒	埋土	
2	奈良時代 須恵器 壊	口縁～底部 遺存率 15%	口径：(15.0) cm 底径：(11.0) cm 器高：4.0cm	外面：灰色 (5Y4/1) 内面：灰色 (5Y4/1)	ロクロ挽き・底部ヘラ切り	雲母・砂粒	埋土	
3	奈良時代 須恵器 壊	口縁～底部 遺存率 80%	口径：12.9cm 底径：8.7cm 器高：3.9cm	外面：灰色 (5Y5/1) 内面：灰色 (5Y5/1)	ロクロ挽き・底部ヘラ切り	石英・小石・ 砂粒	埋土	
4	奈良時代 須恵器 壊	口縁～底部 遺存率 20%	口径：(14.6) cm 底径：(9.4) cm 器高：4.0cm	外面：灰色 (5Y5/1) 内面：灰色 (5Y5/1)	ロクロ挽き・底部ヘラ切り	石英・小石・ 砂粒	埋土	
5	奈良時代 須恵器 甕	胴部 破片	—	外面：褐色 (10YR5/1) 内面：褐色 (10YR5/1)	外面：タタキ 内面：ナデ	雲母・砂粒	埋土	

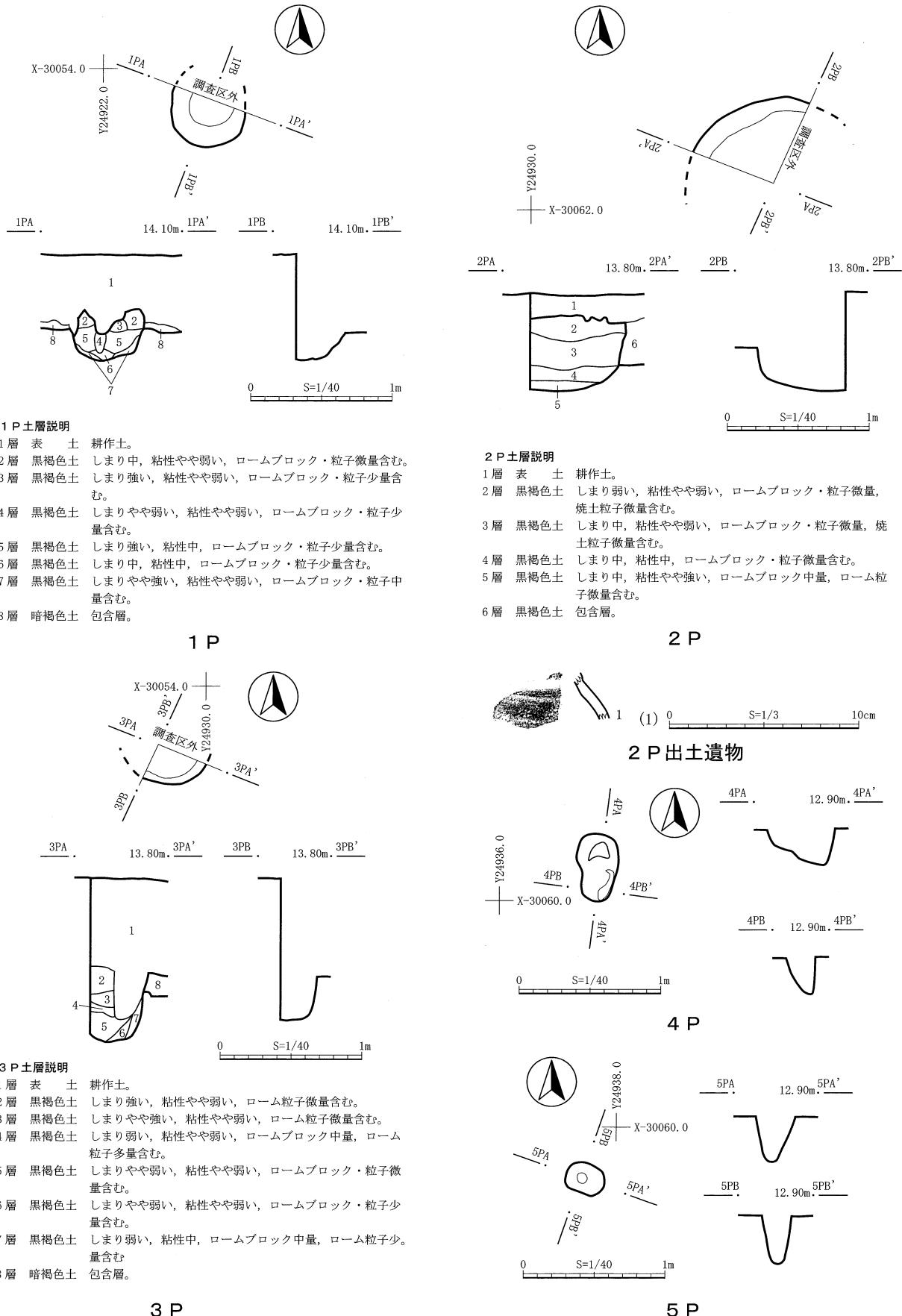
石器						
遺物No.	型式・器種等	石材	寸法	観察所見	出土位置	その他
6	軽石	軽石	最大長：52mm 最大幅：56mm 最大厚：37mm	白色の軽石。黒雲母等を含む。明瞭な加工、使用痕は認められない。一部に擦痕と思われる痕跡があるが、材質がもろく、判然としない。	埋土	

は須恵器甕の破片である。6は軽石で一部に擦痕と思われるものが見られるが、材質がもろく判然としない。

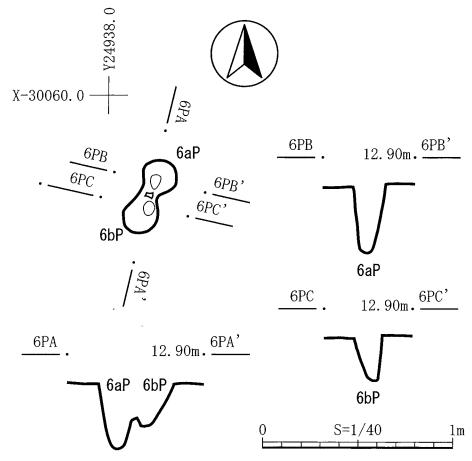
第4節 ピット

1P～15P

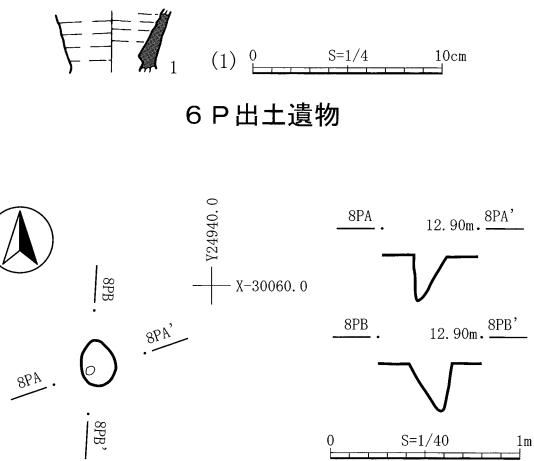
遺物は2P・6P・9Pで出土したが、6P出土土器については6aPと6bPいずれから



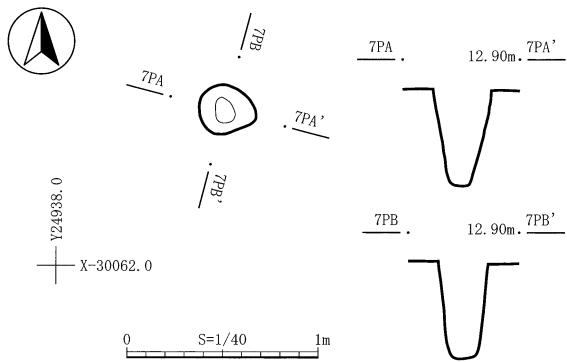
第 15 図 1 P ~ 5 P



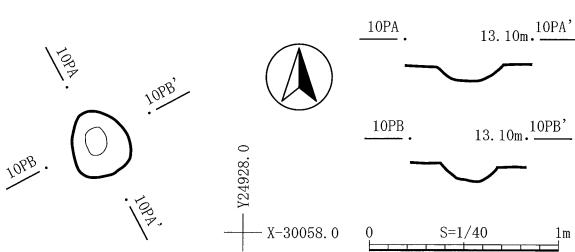
6 a · b P



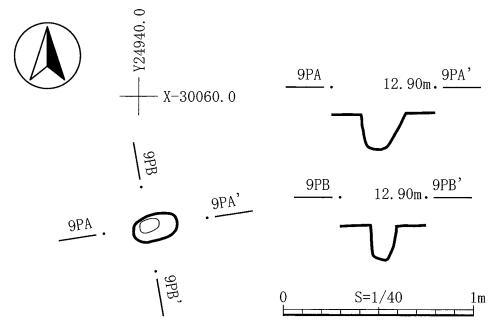
8 P



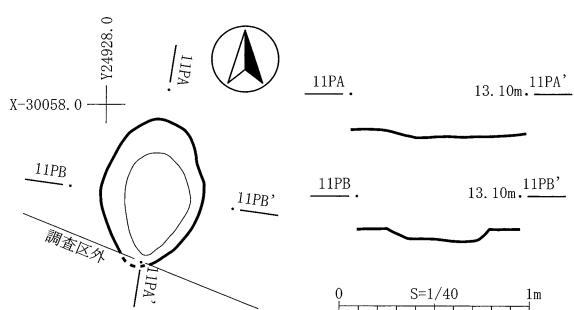
7 P



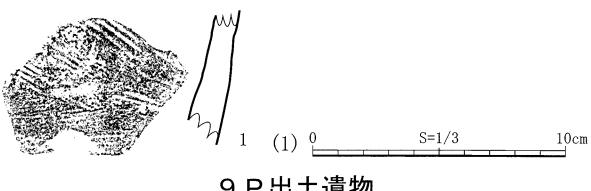
10 P



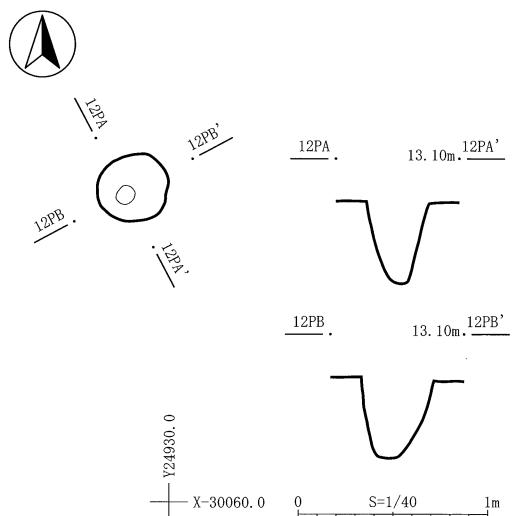
9 P



11 P

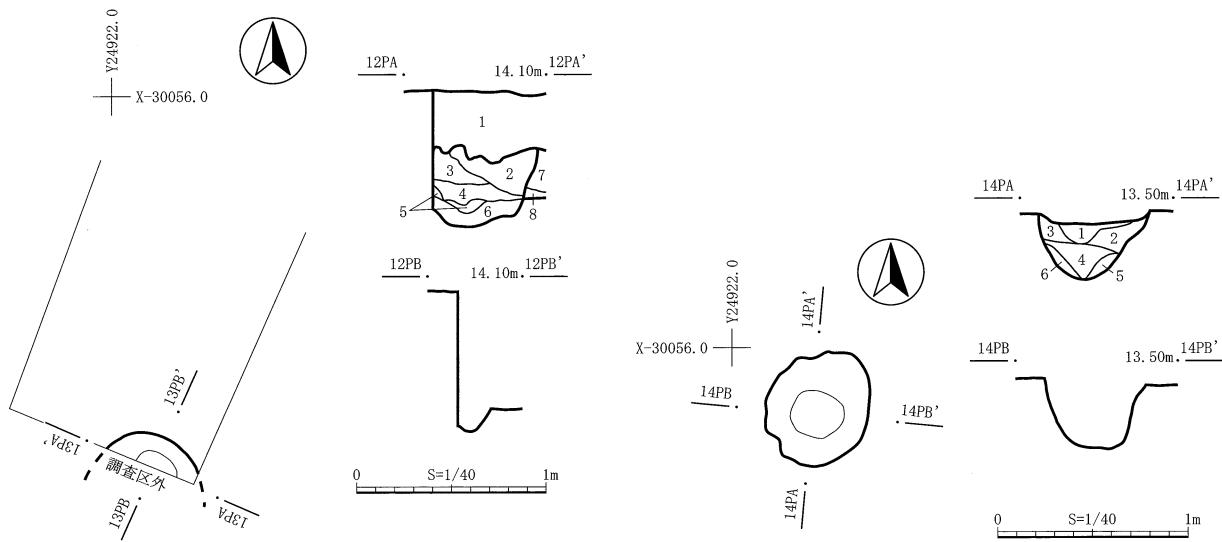


9 P 出土遺物



12 P

第 16 図 6 P ~ 12 P



13P 土層説明

- 1 層 表 土 耕作土。
 2 層 黒褐色土 しまり中, 粘性やや弱い, ロームブロック・粒子微量含む。
 3 層 黒褐色土 しまりやや弱い, 粘性やや弱い, ロームブロック・粒子微量含む。
 4 層 黒褐色土 しまり中, 粘性やや弱い, ロームブロック・粒子微量含む。
 5 層 黒褐色土 しまり中, 粘性中, ロームブロック・粒子少量含む。
 6 層 黒褐色土 しまりやや弱い, 粘性やや弱い, ロームブロック中量, ローム粒子少量含む。
 7 層 黒褐色土 包含層。
 8 層 暗褐色土 包含層。

14P 土層説明

- 1 層 黒褐色土 しまりやや弱い。粘性やや弱い, ロームブロック・粒子微量含む
 2 層 黒褐色土 しまり中, 粘性中, ロームブロック・粒子中量含む。
 3 層 黒褐色土 しまり弱い, 粘性やや弱い, ロームブロック・粒子微量含む。
 4 層 黒褐色土 しまり中, 粘性やや弱い, ロームブロック・粒子微量含む。
 5 層 黒褐色土 しまりやや強い, 粘性やや弱い, ロームブロック・粒子少量含む。
 6 層 黒褐色土 しまりやや強い, 粘性やや弱い, ロームブロック・粒子多量含む。

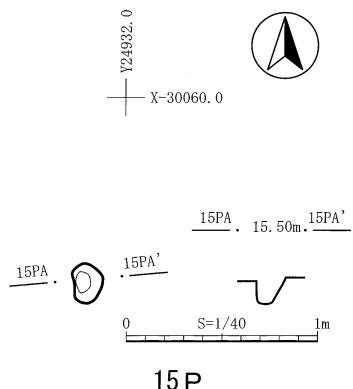
13P

14P

第 17 図 13 P · 14 P

第 9 表 ピット出土遺物観察表

土器								
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土位置	その他
2 P 1	奈良・平安時代 土師器 甕	胴部 破片	—	外面: 橙色 (5YR6/8)・褐灰色 (5YR4/1) 内面: 橙色 (5YR6/8)・褐灰色 (5YR4/1)	外面: 頸部ヨコナデ・ 胴部ナデ 内面: ナデ	雲母・長石・ 砂粒	埋土	
6 P 1	奈良・平安時代 須恵器 長頸壺	頸部 遺存高: 3.1cm 遺存率 25%	—	外面: 灰オリーブ (7.5Y5/2, 自然釉) 内面: 灰色 (7.5Y6/1)	ロクロ挽き	砂粒	埋土	
9 P 1	奈良・平安時代 須恵器 甕	胴部 破片	—	外面: 灰色 (7.5Y6/1) 内面: 灰色 (7.5Y6/1)	外面: タタキ後にヘラケ ズリ 内面: ナデ	雲母・長石・ 白色粒・砂 粒	埋土	



第 18 図 15 P

第 10 表 15 P 出土貝類種名表

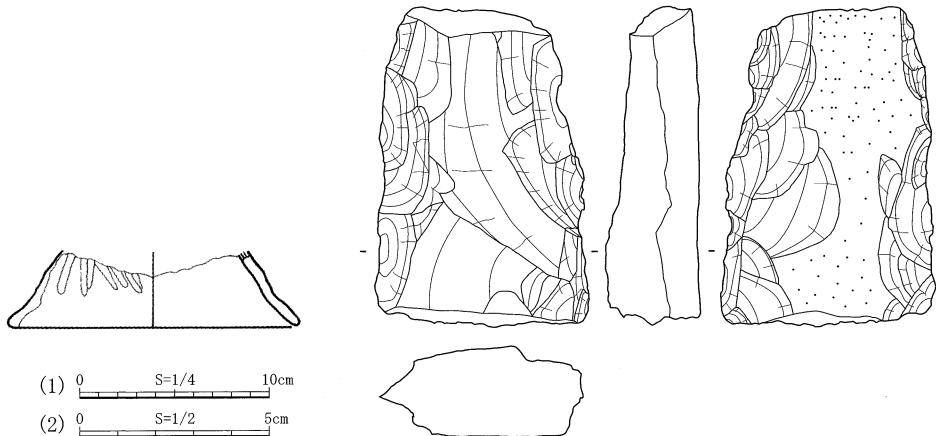
二枚貝網					
種名	学名	目名	科名	個体数	内訳
ハマグリ	Meretrix lusoria	マルスダレ目	マルスダレガイ科	43	右殻 26 左殻 17
シオフキガイ	Mactra veneriformis	マルスダレ目	バカガイ科	15	右殻 8 左殻 7
腹足網					
種名	学名	目名	科名	個体数	
ツメタガイ	Glossaulax didyma	吸腔目	タマガイ科	1	

第 11 表 15 P 出土貝類計測表

ハマグリ				シオフキガイ				ツメタガイ	
右殻		左殻		右殻		左殻		殻高(cm)	殻径(cm)
殻長(cm)	殻高(cm)	殻長(cm)	殻高(cm)	殻長(cm)	殻高(cm)	殻長(cm)	殻高(cm)		
7.3	6.1	8.0	6.4	5.1	4.6	5.7	4.8	4.0	3.1
5.3	4.4	3.3	2.9	3.2	2.9	4.8	4.2		
4.8	4.1	3.3	2.7	-	3.4	-	4.4		
3.7	3.1	3.0	2.7	-	3.0	-	4.4		
3.5	3.2	2.8	2.4						
3.3	2.9	-	6.8						
3.2	2.6	-	3.7						
3.0	2.7								
2.9	2.4								
2.8	2.4								
2.7	2.3								

第 12 表 検出ピット一覧

ピットNo.	時期	検出面	切り合い関係	平面形態	規模
1	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	円形	長軸 0.53m × 短軸不明 × 深さ 0.36m
2	奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	不明	長軸不明 × 短軸不明 × 深さ 0.54m
3	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	不明	長軸不明 × 短軸不明 × 深さ 0.53m
4	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	楕円形	長軸 0.47m × 短軸 0.29m × 深さ 0.26m
5	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	1号溝跡 < 5 P	楕円形	長軸 0.28m × 短軸 0.22m × 深さ 0.34m
6 a	奈良・平安時代	暗褐色土層	1号溝跡 < 6 a P · 6 b P	円形	長軸 0.19m × 短軸 0.19m × 深さ 0.36m
6 b	奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	円形	長軸 0.20m × 短軸 0.17m × 深さ 0.24m
7	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	不整円形	長軸 0.31m × 短軸 0.27m × 深さ 0.51m
8	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	円形	長軸 0.24m × 短軸 0.18m × 深さ 0.25m
9	奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	楕円形	長軸 0.24m × 短軸 0.14m × 深さ 0.19m
10	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	円形	長軸 0.36m × 短軸 0.31m × 深さ 0.09m
11	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	楕円形	長軸 0.78m × 短軸 0.53m × 深さ 0.07m
12	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	円形	長軸 0.39m × 短軸 0.35m × 深さ 0.43m
13	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	不明	長軸不明 × 短軸不明 × 深さ 0.43m
14	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	円形	長軸 0.62m × 短軸 0.52m × 深さ 0.37m
15	古墳時代後期～奈良・平安時代	暗褐色土層	なし	楕円形	長軸 0.21m × 短軸 0.15m × 深さ 0.14m



第 19 図 遺構外出土遺物

第 13 表 遺構外出土遺物観察表

土器								
遺物No.	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	出土状況	その他
1	古墳時代後期 土師器 高坏	脚部 遺存率 20%	底径 : (15.2) cm 遺存器高 : 4.0cm	外面 : 赤褐色 (5YR4/6) 内面 : 赤褐色 (5YR4/6)	外面 : ナデ後に部分的な ミガキ 内面 : ナデ	長石・砂粒	表面探集	
石器								
遺物No.	型式・器種等	石材	寸法	観察所見	出土状況	その他		
2	打製石斧	砂岩	最大長 : 85mm 最大幅 : 56.5mm 最大厚 : 25.4mm	背面側には原礫面が残る。原石は長めで扁平の亜円ないしは円礫を利用した可能性がある。基部・刃部は欠損。両側の縁は階段状の剥離が発達しており、背面右側縁が直線的で、左側縁はやや不整形で剥離が大きいことから、左側縁側からの敲打による両極剥離によって製作されたと考えられる。		表面探集		

出土したのかは不明である。埋土の特徴からいずれのピットも古墳時代後期～奈良・平安時代の中に位置付けられると思われる。15 P からは貝がまとまって出土した。貝種の内訳はハマグリ・シオフキガイ・ツメタガイで、ハマグリが最も多い。

第 5 節 遺構外出土遺物

1 は古墳時代後期と考えられる高坏の脚部で、2 は縄文時代に位置づけられる砂岩の打製石斧である。

第3章 今回の調査成果

本地点の調査では縄文時代中期前半である阿玉台 I b 式期の竪穴建物跡 1 軒、古墳時代後期の竪穴建物跡 2 軒、奈良時代の溝跡 1 条、奈良・平安時代と考えられるピット 4 基、古墳時代後期～奈良・平安時代に属すると思われるピット 12 基が検出された。

特筆される遺物としては内面に放射状のミガキが施された古墳時代後期の土師器坏、石製模造品の双孔円盤が出土した。一方、有機遺存体については、遺物が伴わなかったために詳細な時期に言及はできないが、15 P からハマグリやシオフキガイ、ツメタガイが出土した。白幡前遺跡 c 地点においても貝が投棄された溝跡が検出されており（市教委 2009），海産資源の利用が白幡前遺跡の 1 つの特徴と言えるかもしれない。

遺構には伴っていないが、縄文時代前期の関山 1 ～ 2 式の土器が多数出土した。確認調査時に関山 1 式期の竪穴建物跡 1 棟が確認されたことも踏まると本地点に関山式期の集落が存在したと考えられる。従来、白幡前遺跡では縄文時代のまとまった資料は発見されていなかったため、本地点で行なった確認調査と本調査によって縄文時代の遺構・遺物が確認されたことは大きな成果と言えるだろう。

＜参考文献＞

- 財千葉県文化財センター 1991 『八千代市白幡前遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書V－』
財千葉県文化財センター
財千葉県文化財センター 1994 『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他－東葉高速鉄道埋蔵文化財調査報告書－』日本鉄道建設公団
財千葉県文化財センター 1997 『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）－東葛飾・印旛地区（改訂版）－』財千葉県文化財センター
八千代市教育委員会 1983 『八千代の遺跡－千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書－』八千代市教育委員会
八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成 14 年度』八千代市教育委員会
八千代市教育委員会 2009 『千葉県八千代市白幡前遺跡 c 地点』君塚克己
八千代市教育委員会 2015 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成 26 年度』八千代市教育委員会
八千代市教育委員会 2015 『千葉県八千代市白幡前遺跡 e 地点』玉井正博・亮子
八千代市史編さん委員会 1979 『八千代市の歴史』八千代市

写真図版 1



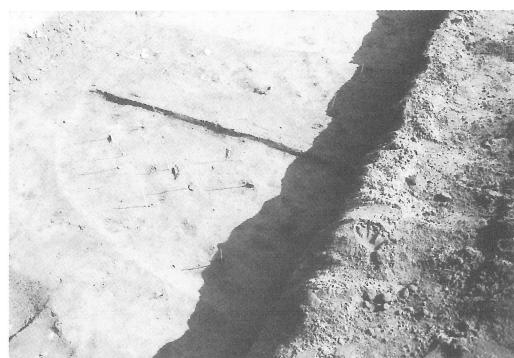
俯瞰写真（北西から）



基本層序 KS1-KS1'（南西から）



基本層序 KS2-KS2'（南西から）



1号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から）



1号竪穴建物跡（北東から）



2号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から）



2号竪穴建物跡 No. 2 出土状況（南西から）



2号竪穴建物跡（北西から）



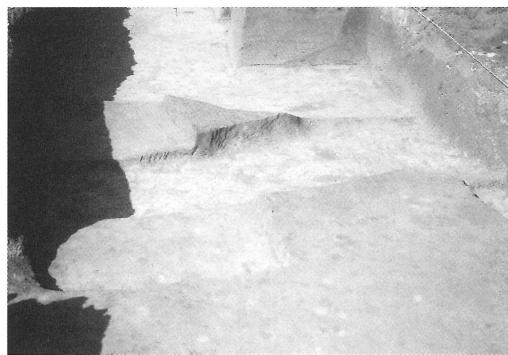
3号竪穴建物跡下層硬化面検出状況（北東から）



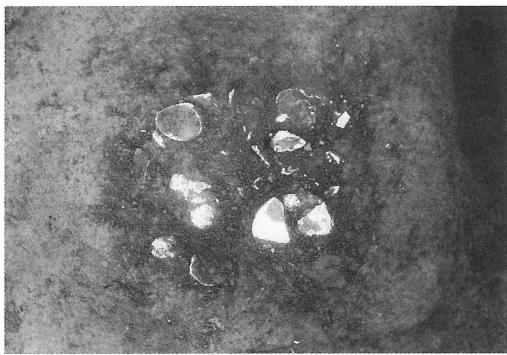
3号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）



3号竪穴建物跡（南西から）

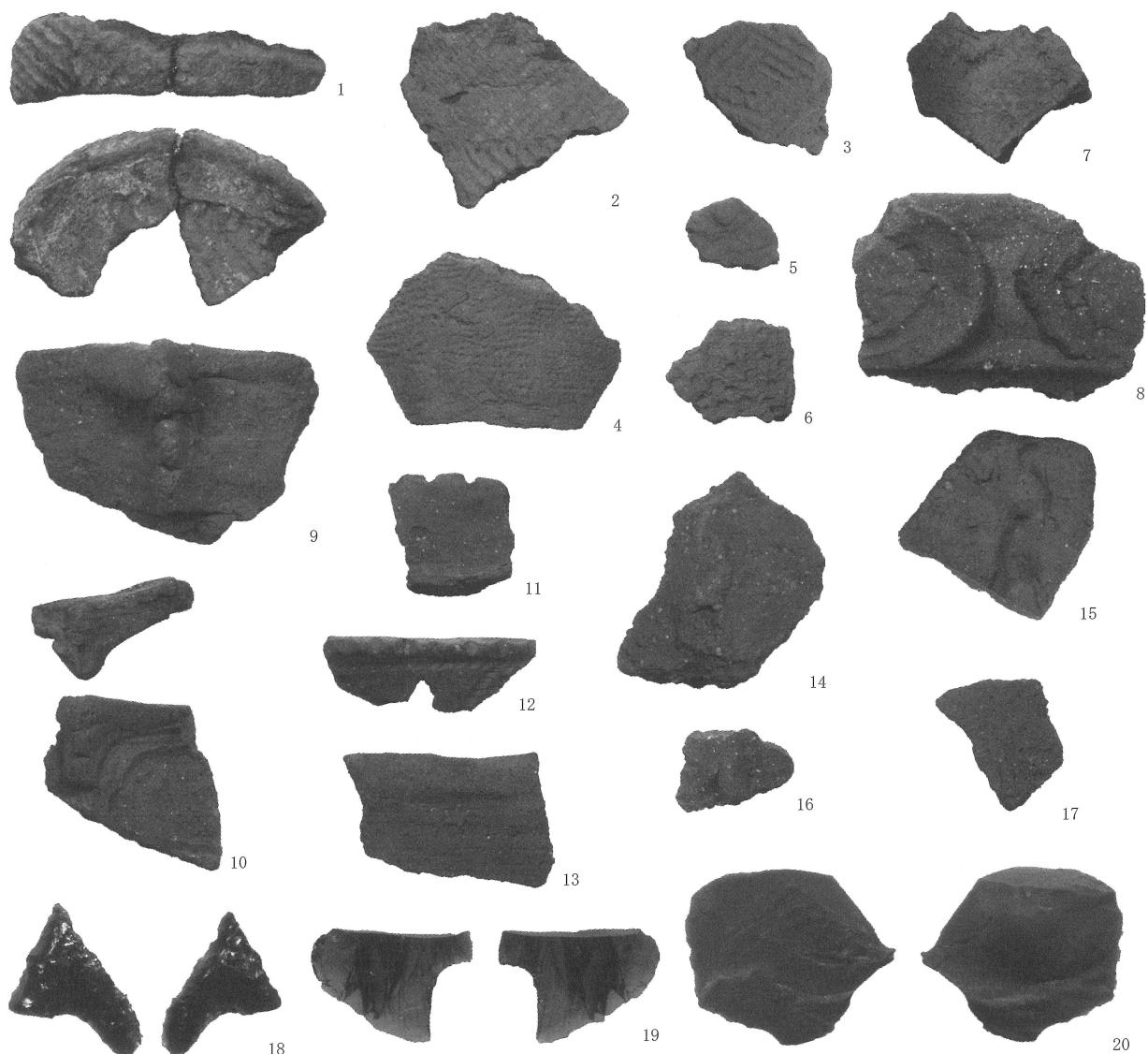


1号溝跡（南東から）

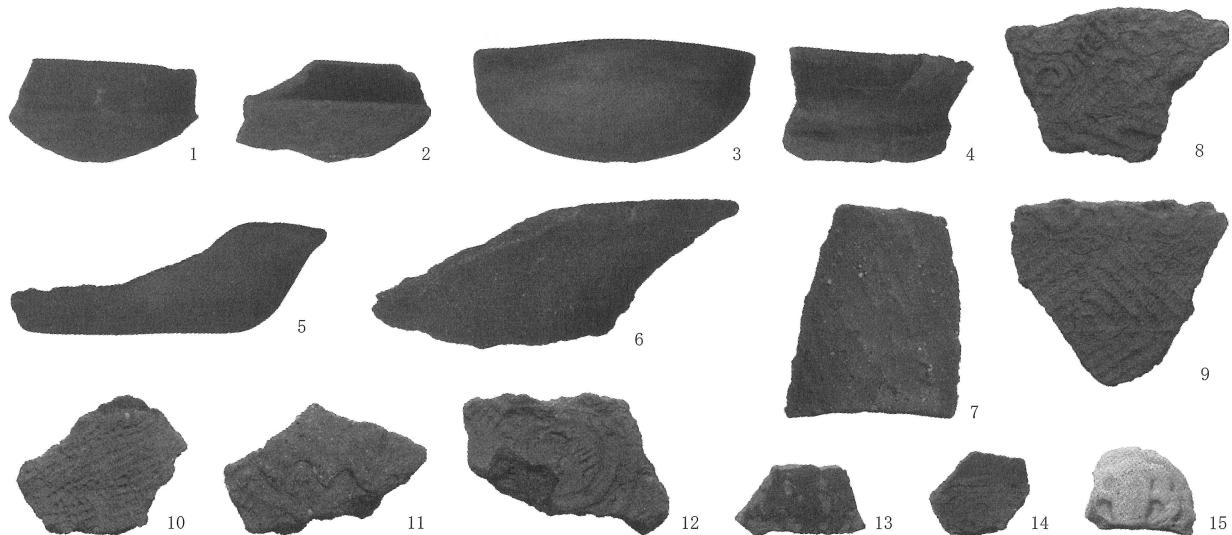


15Pにおける貝の出土状況（西から）

写真図版 3



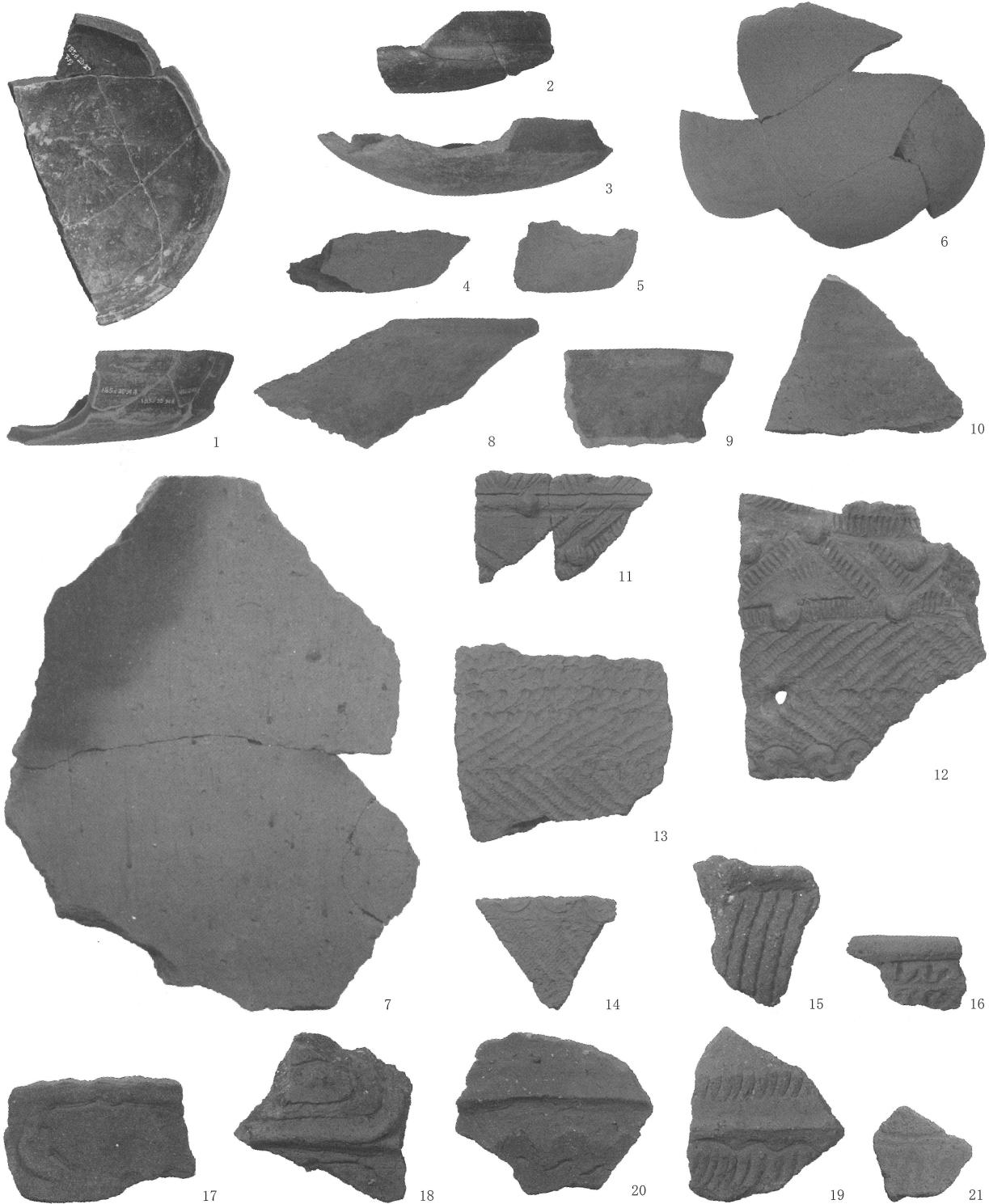
1号竪穴建物跡出土遺物



2号竪穴建物跡出土遺物 (1)



2号竪穴建物跡出土遺物（2）

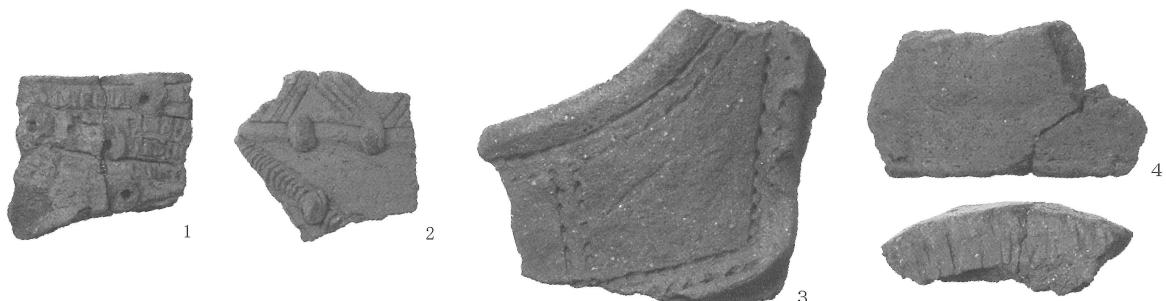


3号竪穴建物跡出土遺物（1）

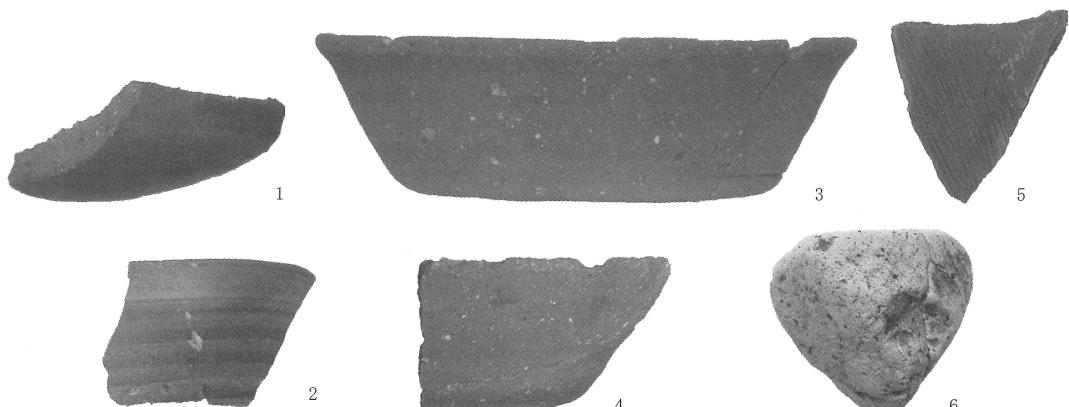
写真図版 5



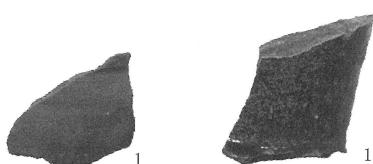
3号竪穴建物跡出土遺物（2）



2号・3号竪穴建物跡出土遺物

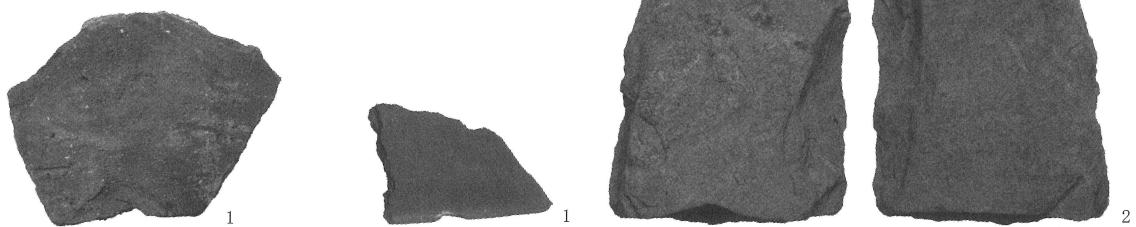


1号溝跡出土遺物



2P出土遺物

6P出土遺物

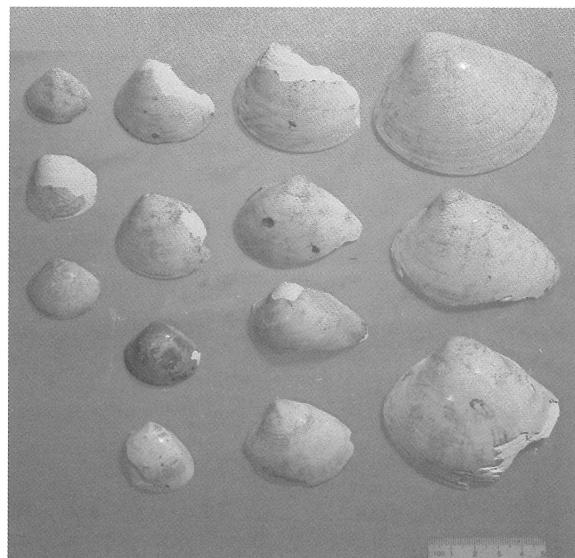


9P出土遺物

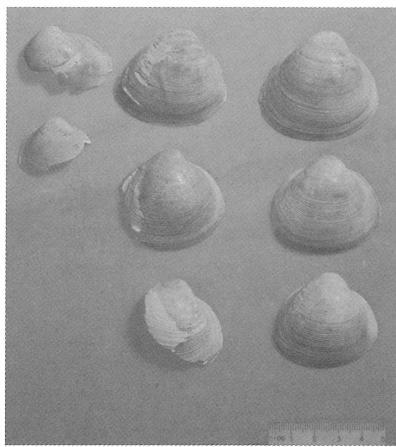
遺構外出土遺物



ハマグリ（右殻）



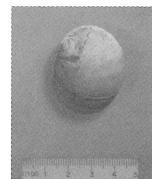
ハマグリ（左殻）



シオフキガイ（右殻）



シオフキガイ（左殻）



ツメタガイ

15P 出土貝類

報告書抄録

ふりがな	しばけんやちよし しらはたまえいせきでいーちてん							
書名	千葉県八千代市 白幡前遺跡d地点							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	轟 直行							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒 276-0045 千葉県八千代市大和田 138 番地2 TEL 047(483)1151 代表							
発行年月日	西暦 2016 年3月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しらはたまえいせきでいーちてん 白幡前遺跡d地点	かやだあざうしくい 萱田字牛喰 1812・1813, かやだまちあざうえのだい 萱田町字上ノ台 356 番1	12221	185	35 度 43 分 26 秒	140 度 06 分 41 秒	2013.10.28 ～ 2013.11.14	90.15 (上層)	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物など	特記事項
白幡前遺跡d地点	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良時代	堅穴建物跡, 溝跡, ピット	縄文土器, 土師器, 須恵器, 土 製品, 石器, 石製模造品, 貝	
要約	<p>本地点の調査では縄文時代中期前半である阿玉台 I b 式期の堅穴建物跡1軒, 古墳時代後期の堅穴建物跡2軒, 奈良時代の溝跡1条, 奈良・平安時代と考えられるピット4基, 古墳時代後期～奈良・平安時代に属すると思われるピット12基が検出された。</p> <p>特筆される遺物としては内面に放射状のミガキが施された古墳時代後期の土師器坏, 石製模造品の双孔円盤が出土した。一方, 有機遺存体については, 遺物が伴わなかつたために詳細な時期に言及できないが, 15Pからハマグリやシオフキガイ, ツメタガイが出土した。白幡前遺跡c地点においても貝が投棄された溝跡が検出されており, 海産資源の利用が白幡前遺跡の1つの特徴と言えるかもしれない。</p> <p>遺構には伴っていないが, 関山1～2式土器が多数出土しており, さらには確認調査時に関山1式期の堅穴建物跡1棟が確認されたことも踏まると本地点に関山式期の集落が存在したと考えられる。従来, 白幡前遺跡では縄文時代のまとまった資料は発見されていなかったため, 本地点で行なった確認調査と本調査によって縄文時代の遺構・遺物が確認されたことは大きな成果と言えるだろう。</p>				

千葉県八千代市 白幡前遺跡 d 地点
—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発 行 日 平成 28 年 3 月 31 日
編 集 八千代市教育委員会 教育総務課
〒 276-0045 八千代市大和田 138-2
TEL 047-483-1151(代表)
発 行 君塚ミチ
印 刷 株式会社 山下印刷
